

目 次

テレビはイラク戦争をどう伝えたか

～ニュース3番組を検証する～

報告 「放送を語る会」番組分析作業チーム

はじめに 調査の動機とねらい	2
第1章 各番組が伝えた情報の分類と量的比較	4
第2章 ニュース・オーダー比較	7
第3章 キャスターのコメント	10
第4章 ワシントン特派員報告	18
第5章 戦況報道(V構成・記者リポなど)	23
第6章 戦況解説(スタジオ中心)	30
第7章 番組ゲスト	35
第8章 企画・特集	41
第9章 自局(系列社をふくむ)従軍記者リポート	49
第10章 米中央軍司令部(カタル)リポート	56
第11章 バグダッドリポート	60
第12章 反戦運動	67
第13章 各番組の報道スタンス	70
(基礎データ)	
(1) 番組分析シート(一部)	74
(2) 情報量比較	99
(3) ニュース・オーダー比較	111
(参考資料)	
(1) イギリスBBC放送「戦争報道ガイドライン」	123
(2) TBS戦争報道ガイドライン	125
(3) NHK放送番組基準(抜粋)	126
(4) イラク戦争関連番組リスト	128

「放送を語る会」の歴史

「放送を語るつどい」14年の歩み	129
放送を語る会主催「放送を語るつどい」の記録	130
放送を語る会主催「放送フォーラム」の記録	134
「放送フォーラム」から(投稿・「放送を語る会通信」に掲載できなかったもの)	135

はじめに 調査のねらいと動機

マスメディアは、イラク戦争の報道で視聴者の求める情報、視聴者が公正な判断をするに役立つ情報を伝ええただろうか？

私たちは、夜の時間帯のニュース 3 番組を比較分析することによってこのテーマの一部の検証を試みた。ニュース 3 番組とは、NHK「ニュース 10」、TBS「NEWS23」、テレ朝「ニュースステーション」である。

調査を始める動機となったのは4月中旬、定例の「放送を語る会」運営委員会の議論だった。米英軍のバグダッド占領から数日を経たこの日、イラク戦争を伝えるテレビを見続けていた会員たちから次々厳しい批判の声があがった。「政府の広報番組を見ているんじゃないかと思えて仕方がなかった」「あの特派員報告は、アメリカ政府スポークスマンの記者会見聞いているみたいだ」「ベトナム戦争時の報道と比べると戦争報道というよりゲーム感覚の戦況報道だ」「軍事オタクの兵器解説じゃないか」等々。

しかし、怒りに任せた感想のやり取りがしばらく続いた後、「これは自分の見た番組だけの印象批評の域を出ていないのではないか」という冷静な指摘を受け、「ではみんなでできるだけ客観的に番組を分析してみようではないか」というのがこの調査を始めた動機である。

会員 6 人によって番組分析作業チームが作られ、先ず資料収集が始まったが、最初に突き当たった壁が基礎資料・ニュースの録画テープの入手である。

新聞雑誌などの活字資料は後からでも比較的簡単に入手できるが、ビデオテープは誰かが意識的にエアチェックしなければ手元に残らない。ましてや放送局に録画テープ提供を求めても著作権その他の複雑な問題が絡み応じてもらえないのはご承知のとおりである。

今回の場合、あらかじめ計画があって担当を決めて録画していたわけではなく、後から調査活動の話が持ち上がったので会員が個人的に録画したテープをかき集めたのだが、日々のニュース番組を録画する人は少なく収集に苦労した。

結局、日頃から「放送を語る会」会員の間で話題になることも多かった上記の 3 番組の計 12 日分のテープを何とか集めることができ、これを基礎資料に作業した。従ってテレビの主なニュース番組を調査分析の視野に入れ、その中からこの 3 番組を調査の対象にピックアップしたというより、たまたま資料として集った 3 番組を便宜的にとりあげたという調査の限界をあらかじめお断わりしておく。同様に、調査した 12 日分も意図的に選んだ 12 日ではなく、3 番組の録画テープがたまたま揃い比較分析ができる日であることもご了解いただきたい。

調査は、先ず手分けして録画テープから「番組分析データ」を作ることから始まった。録画テープから番組構成表を作り直すようなこの作業は意外に時間と手間のかかる忍耐の作業だった。

この 12 日間×3 番組＝延べ 36 番組の「番組分析データ」をもとに、各番組の伝える情報の分類と量的比較を行った。

また、各番組の報道スタンスを読み取る手がかりとして、その日のニュースオーダーを 3 番

組で比較した。

数量化した比較のほか、各番組の報道スタンスを総合的・多角的に検討しようということで、キャスターのコメントなど第3章以下に記したような個別の検討項目ごとに記録し比較した。

時間的制約から第3章以下はチーム全体での討議が充分できず記録分担者の個人責任に任された。内容の要約だけでなく、論評や評価も加えられているが、これは記録を分担したメンバーの個人的見解であることをお断わりしておきたい。また分類の難しい“情報”を相手に整理・数量化する作業のため、「情報の分類と量的比較」をふくめ、データ化に際して一部個人差やばらつきが残されたままであることもお許しいただきたい。

テレビを視聴者の手に取りもどすことを願いに進めてきた私たちの視聴者運動の今後に、このまとめが何らかの役に立つことを願ってここに報告する。

最後に、録画テープの収集にあたりご協力いただいた会員・各方面の方々にもこの場を借りて御礼を申し上げます。

第1章 各番組が伝えた情報の分類と量的比較

情報の内容や質の比較検討は後の章にゆずり、ここでは分類した情報を各番組がどのようなバランスで伝えたかを見ておきたい。(表1参照)

戦闘情報

先ず第5項「従軍記者レポート」に注目したい。NHK「ニュース10」(以下「N10」と略)が、イラク戦争関連ニュース合計放送時間の9.8%を従軍記者レポートで占めているのに対し、TBS「NEWS23」(以下「N23」と略)は0.5%、テレビ朝日「ニュースステーション」(以下「N・S」と略)1.6%と「N10」が圧倒的に多い。「N・S」は独自には配置しなかった(で系列社記者)

今回のイラク戦争では、事前に米・国防総省からメディア各社に従軍取材の意思確認が行われ、記者が部隊に埋め込まれ兵士と一体化して行動するエンベッド方式が新たに持ち込まれるなど、従軍記者のあり方についてはこれまでに多くの問題が指摘されている。

「N10」の従軍記者レポートをこのように多用した報道姿勢は、メディアのあり方を考えるうえで見落とせない内容をはらんでいないだろうか。

第6項カタルの米中央軍司令部情報は、従軍記者レポートほど突出してはいないがやはり「N10」が他局に比較して多い。

第4項「米英軍の戦闘に関する情報」と併せた第4～6項の戦闘情報の合計は「N10」25.6%、「N23」12.6%、「N・S」18.1%で、「N10」は米英軍の戦闘情報量が他番組に比較してかなり多いといえる。

イラク側の被害

第7項は、「N・S」12.5%、「N23」10.0%に対し、「N10」は6.4%と少ない。

しかも、空爆開始前にバグダッドから日本のマスメディアが一斉撤退した後は、「N10」はアンマンからの記者レポートだったのに対し、「N23」「N・S」はフリージャーナリストによるバグダッド中継が多用されて視聴者に強いインパクトを与えた。

政府の動きや記者会見

第2項「米英政府の動き・・・」、第3項「イラク政府の動き・・・」を比べると、「N10」がほぼバランスを取っているのに対し、「N23」「N・S」は米英政府の動きをより多く伝えている。

しかし、後に見るように米英政府や首脳の主張をそのまま伝えるより、言動を批判的に随所にインサートしていることの積み重ねが量的な多さにつながっているともいえる。

一方、第10項「日本政府の主張・動き・・・」は、「N23」2.9%、「N・S」5.7%に対し、「N10」は9.7%と格段に多い。

反戦運動

国際的な反戦の広がりへの伝え方は、各番組に大きな差はないが、国内の反戦運動については、「N23」が7.1%と最も熱心に伝え、「N・S」は1.3%だが、「N10」は極端に少なく0.2%で、「反戦の盛り上がり伝えていない」という多くの人々の批判を裏付ける結果になっている。

戦況解説と戦争の性格や本質を問う姿勢

「N10」は第1項「戦況解説」が17.6%と他番組に比較して多いのに対し、第16項「戦争の性格や背景にかんする企画・討論・・・」は逆に10.9%と少ない。「N23」は第16項が28.0%と各局の中で最も多い。

このことは、後の報道スタンス比較で詳しく検討したいが、「N23」「N・S」が折りに触れ戦争の性格や本質、大義を問う企画や、ゲストを迎えての討論を組んだのに対し、戦争そのものを問うことには踏み込まず、ひたすら客観的な戦況解説に終始した「N10」の報道姿勢を数字の上で示しているといえる。

表1・伝えた情報の分類と量的比較

数字は秒数（3月20,21,24,25,26,31日、4月1,2,3,4,14,15日、計12日分合計）

		NHK ニュース10	TBS NEWS23	テレビ朝日 ニュースステーション	備考
1	戦況解説	5057 17.6%	2792 12.4%	4158 15.1%	
2	米英政府の動き・会見・演説等	2555 8.9%	2278 10.1%	2013 7.3%	
3	イラク政府の動き・会見・演説等	2611 9.1%	1508 6.7%	1616 5.9%	
4	米英軍の戦闘に関する情報 (自局従軍記者リポートを除く)	3096	1943	3559	
		10.1%	7.3%	12.9%	
5	自局従軍記者リポート	2808	103	431	
		9.8%	0.5%	1.6%	
6	米中央軍記者会見・発表情報 (記者リポートを含む)	1627	1068	986	
		5.7%	4.8%	3.6%	
7	イラク側被害の情報	1848	2241	3443	
		6.4%	10.0%	12.5%	
8	米英市民の反応・世論にかんする情報	253	334	424	
		0.9%	1.5%	1.5%	
9	イラク市民の反応・世論にかんする情報	1638	679	748	
		5.7%	3.0%	2.7%	
10	日本政府の主張・動き	2794	643	1576	
		9.7%	2.9%	5.7%	
11	野党の主張動き	90	59	39	
		0.3%	0.3%	0.1%	
12	米英に批判的な各国政府、国際団体の主張・行動	536	195	699	
		1.9%	0.9%	2.5%	
13	米英に協力的な各国政府、国際団体の主張・行動	269	588	334	
		0.9%	2.6%	1.2%	
14	反戦運動・国際	333	255	456	
		1.2%	1.1%	1.7%	
15	反戦運動・日本	46	1588	349	
		0.2%	7.1%	1.3%	
16	戦争の性格や背景に関する企画・構成部分・討論・インタビュー等	3136	6296	6245	
		10.9%	28.0%	22.6%	
	放送時間計	28745	22477	27572	

(7時間59分05秒)

(6時間14分37秒)

(7時間39分32秒)

第2章 ニュース・オーダー比較

基礎データとして作成したその日の番組ごとの「ニュース・オーダー表」をもとに、調査した12日間の各番組のニュース配列を比較検討してみた。

表2「ニュース・オーダー比較・最初の項目」は、フラッシュ・タイトル、リード（冒頭のキャスターのコメント）、戦況解説などを除き、イラク戦争の事実を伝える項目が何から始められたかをもとに表にしたものである。

一見して判るように「N10」は、米英軍の動きや情報から始めている日が10日間と一番多い。他の2番組「N・S」は8回、「N23」7回となっている。

戦争が始まった3月20日の番組開始は当然のことながらどの番組も似ている。「N10」が「攻撃の第一段階」、「N23」は「一日ドキュメント」で共にブッシュ・フセイン演説・ミサイル発射・バグダッドの被害と双方の動きを同じように伝えている。「N・S」も似ているが「開戦までのドキュメント」を設け「日本政府の動き」を最初に据え、「駐日イラク代理大使インタビュー」を入れているのが目を引く。

しかし、第2項目は「N10」が「現地記者報告」で米歩兵師団従軍記者リポを最初に置いて先ず米軍の動きを伝えたのに対し、「N・S」は「攻撃後の反響」としてフリージャーナリストのバグダッド中継、アルジャジーラ・アブダビ両TVの引用などイラク市民の犠牲や空爆被害を重視し、「N23」は「各国・国内の反応」でフィリピンその他の反対デモや抗議行動、仏・ロ・中国など米英に批判的な諸国首脳談話などを並べ、明らかに編集姿勢の違いが見られる。

3月21日、「N10」は冒頭のキャスターコメントの後、直ぐに第3歩兵師団・空母キティホーク各従軍記者リポと続くのに対し、「N23」はフリージャーナリストのバグダッド中継。「N・S」も「イラク攻撃2日目」で双方の動きを伝えた後バグダッド中継を入れるなど、米英軍の動きを重視するのか、イラク市民の犠牲や空爆の犠牲を重視するのか、配列の違いが鮮明になる。

この他の編集姿勢の違いが顕著に見える日をいくつか見たい。

3月31日

「N10」が相変わらず冒頭が「米軍最前線」のタイトルで従軍記者リポ、その後に「イラク国内の最新状況」を並べているのに対し、「N・S」は最初に「空爆の犠牲・自爆攻撃・戦場で起きていること」と、この日の「N10」ではとりあげていない多数の死傷者を出したバグダッドの空爆被害を詳しく伝えている。「N23」も戦況解説に続けて「戦争ドキュメント週末から

の動き」でイラク情報省爆撃と並べて「最大の誤爆か」の字幕で50人以上死亡の市内市場の空爆被害を詳報している。

4月1日

「N10」は冒頭「米軍補給基地にミサイル攻撃」、続いて「自爆攻撃警戒する米軍」「空母艦載機最大の空爆」と従軍記者リポを並べる。「N・S」の冒頭は「首都バグダッドの状況」を生中継、「N23」の冒頭はアンマンからの記者リポだが生中継で「人間の楯に負傷者」となっている。

表2に戻って、「N10」が番組冒頭イラク側の被害から伝え始めている2日間に注目したい。3月26日はバグダッドで住宅地が空爆を受け市民14人が死亡、29人が負傷など大きな被害が出た日である。「N10」はアンマンから記者レポートでこのニュースを伝えている。この日は「N23」も冒頭スタジオからの戦況解説につづいて、直ぐに住宅地空爆のニュースをフリージャーナリストがバグダッドから中継で伝えている。「N・S」のこの日のトップは米軍発表だが「イラク兵300人死亡」である。

「N10」がイラク側情報から伝え始めたもう一日は4月15日で3番組揃ってバグダッドから伝えているが、この時期すでにバグダッドには米軍が入り大半のマスメディア記者もバグダッドに戻ってきている。

この日の各番組のトップ項目を見てみよう。「N10」は「イラク軍武器おびえる市民」のタイトルで、バグダッド市内民間住宅で大量の武器が見つかり市民が処理を米軍に要請したことなど、治安の悪化・略奪にもまして「残された武器が最も危険」と伝えている。

「N23」は、暫定政権づくりの協議開始、「N・S」はティクリートの大統領宮殿の略奪を伝えている。

その日のニュースのトップに何をすえるかは、編集上重要な選択だと思う。そこからは各番組の編集姿勢が読み取れると考える。

今回ニュースオーダーの比較で、最初の項目に何が置かれたか、その後の配列がどう行われたかを見ることによって、米英軍の動きを重視する「N10」、市民・民間人の犠牲や困難、イラク側の空爆被害などを重視する「N23」「N・S」と、調査した12日間に限って言えば、各ニュース番組の編集姿勢の違いがかなり明確に読み取れたと考えられる。

表2 ニュースオーダー比較・最初の項目

ニュース10			NEWS23			ニュースステーション		
米英軍の動きから	イラク側の被害から	その他	米英軍の動きから	イラク側の被害から	その他	米英軍の動きから	イラク側の被害から	その他
3月20日			3月20日					3月20日
3月21日				3月21日		3月21日		
3月24日				3月24日		3月24日		
3月25日			3月25日			3月25日		
	3月26日			3月26日		3月26日		
3月31日			3月31日				3月31日	
4月1日				4月1日			4月1日	
4月2日			4月2日			4月2日		
4月3日			4月3日			4月3日		
4月4日			4月4日			4月4日		
4月14日			4月14日			4月14日		
	4月15日			4月15日			4月15日	
10	2	0	7	5	0	8	3	1

第3章 キャスターのコメント

3月20日(木)

【ニュース10】

「ついにイラクへの攻撃が始まった。フセイン大統領に亡命か戦争かを迫った最後通告の期限切れの今日正午前のこと。ブッシュ大統領はフセイン政権打倒に向けた軍事作戦開始を明らかにした」「イラク側もミサイルなどで応戦。フセイン大統領は攻撃を強く非難、国民に聖戦を呼びかけた」

【NEWS 23】

「ついに米のイラク攻撃が始まった。シラク大統領は将来に重大な悪影響と言明、プーチン大統領も政治的判断ミスと共に批判したが、小泉首相は、かけがえのない同盟国を可能な限り支援すると答弁。世界が大きなコーナーを回った感じ。この戦争の正体は何か、ゲストと伝えたい」

「世界が変わった日」 = 「多事争論」 筑紫キャスター

「ジャーナリズムはものごとを誇張しがちだが、今回は明らかに世界が変わった日だ。圧倒的な力を持つ国が世界を自分の考えどおりに変えることに着手した。国際協調がこれほど軽んじられたことは例がなく、日本の姿は国際協調の場で消えかかっているという指摘も。自分たちの国がどんな姿になっていくのか、自らに問いかける日でもある」

【ニュースステーション】

「ニューヨーク国連本部には、ピカソの『ゲルニカ』がかかっている。スペイン内戦で焦土と化した街が題材。描かれているのは帝国主義と国益追求の文化に踏みにじられた市民の命だ」

3月21日(金)

【ニュース10】

「イラクへの攻撃は2日目を迎えた。米軍は地上部隊を投入、首都バグダッドへ向けて前進している。英軍も本格的軍事行動に。バグダッドをめざす地上部隊は、きょう午後5時の段階で既にバグダッドの南200キロまで進む」

「バグダッドに向けて前進しているのは、地上部隊の主力第3歩兵師団の部隊で、時速40キロ以上のスピードで進む」

【NEWS 23】

「超大国アメリカの指導による帝国の戦争は2日目に入った。空爆に加えて地上戦も開始。その一方で、世界各地で反戦のうねりも高まっている」

【ニュースステーション】

「バグダッドからの映像には昨日にも増して爆発音とともに、大きな炎と黒煙が映し出されている。しかし米は本格的な攻撃はこれからだと言っている」

「バグダッドでは、米軍がフセイン大統領らに的を絞った空爆を続けている。クウェートに展開する地上部隊は、国境を越えてイラク領内に進撃した」

「N10」は、20日、21日とも、他番組キャスターが今回の戦争について一定の批判的な感想を率直に述べたのに対して、客観的情報をそっけなく伝えるというスタイルで通し、憲法上、戦争は許されないのだという公共放送の規範を無視してしまっていないか。

「N23」は、開戦初日は攻撃反対国の首脳と小泉首相の発言を対比させ、世界がコーナーを回った感じと指摘、翌日は超大国アメリカによる帝国の戦争と位置づけるなど、戦争に批判的な姿勢をはっきりさせた。20日の「多事争論」では筑紫キャスター自身が「世界が変わった日」をテーマに、圧倒的な力を持った国が世界を自分の思うがままに変えようとする危険性と、自らの国の将来を真剣に考えるべきことについても力説。

「N・S」の20日は、冒頭ピカソの『ゲルニカ』を例に今回の戦争を「人類の営みで最も愚かで悲しい行為」と表現し、21日は、バグダッドからの映像に「前日にも増して大きな炎と黒煙が上がっている」と心情をのぞかせてコメントした。

3月24日(月)

【ニュース10】

「5日目、空爆を続ける中、米英軍の地上部隊はバグダッドに迫っている。イラク軍は局地的にはげしい反撃をつづけ、米軍は10人死ぬなど最も大きい被害を受けている」と米、イラク双方の動きを客観的に報道、番組のラスト・コメントはなし。

【NEWS23】

「イラクへの攻撃が始まって5日目、米英軍の作戦は順調とされているが当初の見通しとは異なる読みちがいも出ている」とやや米に批判的。ラストは視聴者からのメールでイラク戦争賛否、日本の政治やアメリカへの意見を紹介しているのが「N10」「N・S」にない特徴。

【ニュースステーション】

「リアルタイムで伝えられる衝撃と恐怖、地上戦で飛び交う砲弾、とらえられた兵士のふるえる声、ブッシュ大統領のいうイラクに自由をもたらす為の戦争です」とやや文学的な表現でイラク戦争に批判的なコメント。

番組ラストでは評論家寺島実郎氏の日本人の歴史観が試される戦争だというまとめで終わっている。

3月25日(火)

【ニュース10】

「当初、米英軍は圧倒的有利が伝えられていたが、地上戦に入り局地戦で戦死者が相次いでいる。まもなく米英軍はバグダッドを守る共和国防衛隊と対峙する見通し、ブレア首相のいう最も重大な局面をむかえようとしている」と客観報道、ラスト・コメントはなし。

【NEWS23】

「ここへ来て死傷者の多さなどから、アメリカの世論では長期化を懸念する声も出はじめている」と。

ラストは筑紫キャスターが「多事争論」で「テレビゲーム」について。「子供にとって現実とゲームの区別がつかない、そんな子供がどう育っていくかが私はこわい気がする」と発言、この「多事争論」はジャーナリストとして筑紫キャスターが発言するのが他局にない特徴。又視聴者のメールでイラク戦争についての様々な意見を紹介している。

【ニュースステーション】

「机の上で練り上げられたシナリオには命の重さという概念は存在しないようです。米のパウエル国務長官はいいました『これはテレビゲームでなく戦争なんだ』とやや文学的表現、ラスト・コメントはなし。

3月26日(水)

【ニュース10】

「バグダッドの住宅地が爆撃を受けた。イラク当局は少なくとも14人死亡、30人負傷したと伝えた」(この後、アンマンから中継でイラクの国営テレビ局が巡航ミサイルで攻撃されたこと、米英地上軍を阻むのはイラク軍ばかりでなく、すべての視界をさえぎる猛烈な砂嵐だと放送) ラスト・コメントはなし

【NEWS23】

「砂嵐とイラク軍のゲリラ戦で米英軍の進撃はやや停滞ぎみです。米英軍に何か誤算があったのか検証します」と米英側に批判的なコメント、ラスト・コメントはなし。

【ニュースステーション】

「猛烈な砂嵐の中をバグダッドの玄関先までせまったとする米英軍。イラク軍は一般市民に向けて手段を選ばずに闘えと命じた」と客観報道、ラスト・コメントはなし。

3月31日(月)

【ニュース10】

冒頭コメントは、米・イラク双方の動きに触れ公平性に配慮し、見解や評価を加えない客観報道。

【NEWS 23】

冒頭で「初め衝撃的な爆撃に驚いた人間も連日の猛爆で見慣れてしまうところが戦争の怖いところではありますが、確実に人は死に続けています」と戦争の非人道性に触れる。「長期化の様相を帯びつつあります」と懸念。

【ニュースステーション】

「イラク攻撃では誤爆による一般市民の犠牲が続出しアラブ各国が怒りの行動に出始めています」とコメント、「N10」との違いを見せている。

ラストで『「バグダッド四日で包囲」の甘い観測も。チェイニー『われわれはイラクで解放者として歓迎されるだろう』、ラムズフェルド『戦争の期間6日間ないし6週間』とも。彼らが甘い見通しをしていたことを私たちは忘れないようにしましょう』（清水コメンテーター）といずれも戦争長期化への懸念と見通しの甘さへの批判をにじませているのに対し「N10」はこの2点には触れていない。

4月1日(火)

【ニュース10】

「首都バグダッドの防衛にあたるイラク共和国防衛隊、首都攻略を伺うアメリカ軍の地上部隊。各地で激しい戦争が続いています」と双方の動きを並列に並べ論評抜き。

【NEWS 23】

「イラク戦争ですが今夜は『戦争とは人を殺すことだ』と言うことを改めて示す話が集まっております」と非人道性を訴える。

【ニュースステーション】

「大特集を組んであります。タイトルは『民主化という名の戦争』。今起きているイラク戦争の本質は何なのか考えてみたいと思います」と戦争の本質を問う姿勢を示している。

4月2日(水)

【ニュース10】

この日も「首都バグダッド攻略を狙うアメリカ軍とこれを阻止しようとするイラク共和国防衛隊。双方の地上部隊の間で開戦以来最大規模の戦闘が行われた模様です」と等距離に双方の動きを並列。

【NEWS 23】

冒頭「テレビで見ていると良くわからないんですが空爆が続くバグダッドに身を置いている

と、一番強く身体に感じるのは風だそうです。つまり爆風です。数キロ先に着弾しても爆風で椅子から転げ落ちるほどだそうです。それが一日数百発という単位で打ち込まれるわけですから私たちの想像を超えるところがあります」と市民の感覚・目線で戦争を捉えようとしている。さらに「多事争論」コーナーで「ベトナム化」を設定、筑紫キャスターが「民間人の死傷者が次々に出始めている。攻め込んだ側には、一般住民なのか攻めかかってくるのかわからないのがゲリラ戦。近年少年兵や女性も。安全のために先ず相手を撃ち殺すことに。ベトナム戦争で起きたことにだんだん似てきた。ちなみにベトナム戦争の死者の95%は民間人。『戦争はそういうもの』と考えるか『だから戦争はいけない』と考えるか。私たちの判断も問われている」とここでも戦争の非人道性を問う姿勢を明確にしている。

【ニュースステーション】

冒頭で「自由をもたらすために使われた巡航ミサイルはすでに700発、精密とされる誘導爆弾は9000発を越えています。誤爆や兵力不足という作戦ミス指摘を吹き飛ばしたいペンタゴンが新たな命令を下しました」とアメリカの主張する戦争の大義名分と戦争のもたらす非人道性を対比してコメント。

ラストは「失敗と判っているにもかかわらず、そして戦争の痛みを知っている人がアメリカ人でも反対しているにもかかわらずリーダーが暴走してしまう。これは58年前日本が経験したことと全く一緒で、でもその結果起こったことは罪のない市民が傷つくということなんですよ」（森永コメンテーター）、「たしかに一番必要なのはスマートリーダーかもしれません」（久米キャスター）と名指しを避けながらも米英指導層への批判を展開している。

客観報道とは、人道的な視点に立つ批判や見解をも排除し等距離を保つことなのだろうか？

4月3日(木)

【ニュース10】

この日の冒頭は、「開戦から2週間。アメリカ軍などの地上部隊は首都バグダッドへの包囲網を狭めています」と事実のみの客観報道。

【NEWS23】

「N10」と同様米英軍のバグダッド包囲の情報を伝えた後、「このまま一気に攻め込むのか、それともいったん態勢を立て直すのか、世界はその行方を見守っています」と人々の懸念を伝える。

【ニュースステーション】

「あっけない大勝利が間近なのか、イラクの思う壺の展開なのか。いずれにしても人口500万人の首都での決戦は避けられない情勢です」、中間では「アメリカは繰り返し『罪のないイラク市民の犠牲を避けるためにあらゆることをする』と。ブッシュの開戦演説でも同様の強調。

国連決議なしで踏み切った武力行使ですからこういわざるをえないが、民衆を巻き添えにしない戦争ありえない。パウエルさんがいったように『これが戦争というものだ』というのが本当のところではないですか（清水コメンテーター）と民間人への被害の拡がりを懸念している。また、「国連の決議ナシの武力行使」と指摘、米英軍の開戦に批判をにじませている。

4月4日（金）

【ニュース10】

「イラク戦争は、アメリカ軍地上部隊が首都バグダッド郊外のサダム国際空港をほぼ制圧するなど、戦況が動いています。今夜も最新情報をお伝えします」とあくまで客観姿勢。ラストコメントも「イラク戦争関連のニュースを終わります」という程度でそっけない。

【NEWS23】

トップが新型肺炎関連で、イラク戦争についての筑紫キャスターのコメントはなし。ただ、ブッシュがなぜ支持されるか、について、米海兵隊基地での演説を素材にしたワシントン支局金平記者のリポートを受けて、筑紫キャスターは「アメリカとそれ以外の世界の空気がまったくちがうのがどんどん進んでますね。とっても危険なことですね」とブッシュ支持のアメリカの空気に懸念を表明した。

【ニュースステーション】

イラク戦争関連ニュース冒頭は、久米キャスター「アメリカの地上部隊はバグダッドの攻略に向けて北上し、一部の部隊は、イラク軍が生物化学兵器を使う恐れのある危険領域、レッドラインを越えています」と戦況を伝えるコメントから入っている。

やや気になるのはレッドラインという言葉だ。“イラク軍が生物化学兵器を使うおそれのある危険領域”、という評価は、テレビ朝日独自の判断ではないだろうから、これはアメリカ軍側の表現であろう。とすれば、この表現を誰が言ったのかに触れず、無批判に使用したのはどうか、という疑問が残る。イラクが生物化学兵器を使う、ということを当然の前提としているかのような印象をうけるからだ。

ラストは、イラク戦争関連ニュースについて、メディアとしての検証を日々やるのが務めだ、という萩谷順コメンテーターの発言をうけて、久米キャスターが「湾岸戦争の時から我々ずっと同じ悩みを抱えているわけですがけれども、ニュースステーションは、なるべく情報の出所は、これはアメリカ軍側から、これはイラク軍の発表、これはほかのマス・メディアはこう伝えていますが、と、なるべくニュースの出所はきちんと伝えるようにしていますので、みなさまもお気をつけてごらんになっていただきたいと思います」と、ニュースに“出所”があり、視聴者が“気をつけて見る”必要があるものだと言及した。

4月14日(月)

【ニュース10】

冒頭「北朝鮮による拉致被害者5人が帰国してから半年。ホームビデオで撮った心の中、イラク戦争最新情報に続いておつたえします」

「開戦から26日、米軍はイラクのバグダッドをはじめすべての主要都市を制圧した。テイクリートはフセインの重要拠点だが予想した抵抗はない」というカターの米中央軍司令部コメントもふくめて戦況を伝える。

ラスト「暫定政権を立ち上げるために不可欠となっているのが治安の回復だ。その障害となっているのが自爆テロによる攻撃。アメリカ軍はイラクと合同でパトロールを始めたが、以前（フセイン政権時）の警察を引き継ぐ事は問題を複雑化するとみられており、フランス司令官のバグダッド入りが戦争集結にむけての始まりか、それが今後の最大の焦点」と市瀬記者のコメントでイラク戦争関係をむすぶ。治安回復の障害に自爆テロをあげるだけでよいのかどうか。

【NEWS23】

冒頭「大統領の故里テイクリートは制圧され、豪華な宮殿の内部映像も入ってきた。イラクで戦闘は収束しつつあるが、政権の崩壊に伴って治安が悪化、バグダッドでは掠奪・破壊で混乱が大きな問題となっている」。

【ニュースステーション】

冒頭「イラクの北、テイクリートという都市があります。フセイン生誕の地、イラクにとって最後の拠点といわれていました」とイラクの地図を背景に紹介。そのテイクリートが制圧されたことを、アルジャジーラの報道、米中央軍司令部の発表双方の情報で紹介、インサート映像を交えたバグダッド市内の治安の悪化の状況まで圧縮したかたちで伝える。

ラスト久米キャスター「治安の責任はアメリカにある。水も食料もないではお年寄りや子どもが犠牲になる。これではフセイン政権よりも悪くなってしまう」を受けて、ゲストの荻谷コメンテーターは「治安、公衆衛生の責任が米英占領軍にある」としつつ、「フセイン政権が、敗戦国だったドイツや日本と異なり、敗北で政府の組織機構が消失してしまったことは米英政府の誤算だった。フセイン政権は匪族のようなものだった。被害を受ける人の救済に緊急、最大の努力をしなければならない。」と応える。

水や食料などの問題は「明日、明後日に解決しなければならないことだ」久米キャスターが発言を促す。「フセインは6カ月の食料を配ったといていたが実際は1カ月、我々をだました無責任な政権だった」とこたえるコメンテーター。二人の間に微妙なすれ違いを感じるやりとりだった。

4月15日(火)

【ニュース10】

冒頭「イラク戦争は戦後復興に焦点が移ってきている。アメリカから“悪の枢軸”と名ざしされた北朝鮮はイラク戦争をどう見ているか。イラクの統治をどのようにすすめてゆくのか、その体制づくりが急がれている。」

ラストは暫定統治協議会の行く先不透明さを指摘、「米英は協議会の主導権を握っていない、…」という字幕。しかし暫定統治協議会の主導権はアメリカがおさえており国連もわき役にされているのは周知の事実でこの表現には違和感がある。

【NEWS23】

冒頭「イラク戦争は戦闘の山をこえたが、次なる復興支援を視野に入れる中で早くも問題がもちあがっている。」

ラスト「イラクの未来をアフガンから問いかける」をうけて、ゲストの中村哲医師はアフガンの状況を説明、「アフガンはすでに破綻している」と結ぶ。

【ニュースステーション】

冒頭「イラク戦争の後を気にしつつ、お祭り騒ぎ（金日成生誕の祝賀行事）です」と、アメリカのイラク戦争を視野にいれ、国民が指導者に結集してゆくように意図した北朝鮮の祝賀行事を批判的につたえる。

第4章 ワシントン特派員報告

3月20日(木)

【ニュース10】 手嶋龍一ワシントン支局長

「ブッシュの真意」「特殊部隊ヘリ不時着」を中心に語る。「米、イラクには圧倒的な軍事力の差。ハイテク兵器の25万兵力を投入できたが、イラク国民への攻撃との印象を避けるため、フセイン政権中枢に絞って限定的な攻撃。米国防総省の発表では、米特殊部隊のヘリがイラク領内で不時着、開戦前の工作裏づけた」

【NEWS23】 金平茂紀ワシントン支局長

「CIAが攻撃進言」「諜報機関重視の体質如実に」をキーワードに「テネットCIA長官がフセイン抹殺のチャンスは今と進言、ブッシュが攻撃のゴーサイン。軍事より諜報を重視するブッシュの体質が如実に。また、ワシントンの住民が攻撃の第1波を待ちつづけるという異様さも明らかに」

【ニュースステーション】 田畑正記者

「米メディアの報道の姿勢」「メディアにリーク、陽動作戦も」と。「米有力紙は『攻撃の照準はフセインだったが、第1撃では取り逃がす』と報じる。テレビメディアは攻撃開始の詳細を報道、リークではないかという感じ。戦争を仕掛けるブッシュ政権の力の前には、メディアもプレイヤーになってしまう怖さが」

3月21日(金)

【ニュース10】 手嶋支局長

「地上戦への対応」「油井確保」について。「ブッシュは会議で、攻撃全般が順調と自信を示す一方、生物化学兵器への備えと油井の制圧を指示。湾岸戦争後の経済で失敗した父の教訓から、油田を守れと前線の兵士にゲキを飛ばす」

【NEWS23】 金平支局長

「フセイン生死の消息」「戦争報道テクノロジー」について。「ワシントンの最新情報もフセインの生死に関するものばかり」「米メディアは、ビデオフォン・自動追尾装置を使い、砂漠を走りながら延々と生中継、戦争テクノ同様、戦争報道テクノも進化？」

【ニュースステーション】 田畑正記者

「米軍南部進攻とイラク軍の動向」について。「米軍は、今回の作戦がフセイン政権の内部崩壊で奏効と評価。忠誠心の高い部隊幹部との接触で、複数の幹部が降伏の意向と、さまざまな情報流す。イラク国民向けのリークの可能性も」

「N23」金平記者は20日、諜報機関を重視するブッシュの体質を指摘、21日はフセインの生死に関心が集中する米メディアの異常さや、ハイテクを使ってリアルタイムで戦争を伝えようとするテレビメディアの姿勢に疑問を呈した。

「N・S」20日の田端記者は米メディアの報道姿勢に触れ、密室での会議のもようをメディアがいち早く伝えた裏に、政権からのリークの疑いを指摘し、自分たちも含めて戦争推進のプレイヤーになる危険性に警鐘を鳴らした。

3月24日(月)

【ニュース10】 この日は手嶋支局長が2回出演。

1回目は「4日振りに演説したフセインが本物かどうかCIAが分析している。又フセインの居どころをイラクに潜入させたエージェントや同盟国の情報機関と連携しながら情報収集している」

2回目はブッシュ大統領と父ブッシュ元大統領の因縁話。「父は12年前、同じ敵フセインに挑み圧勝した。父はテレビには出ないといっていたがNHKに次のように話してくれた『イラクは息子の問題だ。大統領は評論する父親を必要としない』」と。手嶋記者の特ダネ意識が気になるレポート。

続けてワシントンの山下記者は「12年前は国連決議を取り付けて勝利したが今回は国連の支持は取れなかった。厳しい流れになる」とレポート。

【NEWS23】 金平支局長

「アメリカは91年湾岸、コソボ、ソマリアとメディア戦略を学んできている。イラクの米基地ではメディアの映像が流されていて、士気高揚のためにメディアを積極的に使っている」

【ニュースステーション】 田畑記者

「米軍に被害出る」というレポート。「マイヤーズ統合本部議長は『米軍の誤射やヘリの墜落などは毎日何千回もやっていたらこういう事故は起きるもの』と淡々としていた」。

3月25日(火)

【ニュース10】 神子田記者

「イラク戦争・米国経済への影響」というレポート。「影響を考えるとブッシュはイラク戦費の公表をひかえている。マーケットが反応し景気の足を引っぱりかねないからだ。議会予算局は1ヶ月で終わって750億ドル=9兆円超かかると見込んでいる。爆弾の大半が精密誘導爆弾で莫大な費用がかかるのは間違いなく、ブッシュ政府は今年度の財政赤字を36兆円と見込んでいる」。

このレポートは開戦6日目という時期でもあり、他局にないインパクトある内容だった。

【NEWS 23】 金平支局長

「戦費として9兆円の追加予算案をブッシュは議会に提出した。議会は民主・共和とも協力的で、挙国一致体制が出来上がったといってよい。ブッシュも長期戦を覚悟している」。

3月26日(水)

【ニュース10】 手嶋支局長

「きのうライス補佐官が国連のアナン事務総長に協力を求めた。今度の闘いの後には膨大な復興資金が必要になっている事が明らかになってきており、日本など同盟国から協力を得るため新たな国連決議を採択したいというのが米英の本音である」。

【NEWS 23】 金平支局長

「戦争はまだ始まったばかりだというラムズフェルド国防長官の発言はバグダッドの攻防戦がいかに困難を伴うものであるかを示すシグナルと受け取ることができる。今回放送された米捕虜の映像やフセイン大統領の健在ぶりを示す映像はアメリカにとって目ざわりそのものでした。アルジャジーラ TV をワシントンではホスタイルメディア（敵のメディア）と決めつける言葉もきかれるようになった」とアメリカ国内のイライラ気分をよく伝えているレポート。

【ニュースステーション】 田畑記者

「開戦から1週間で米英軍の死者が45人、うち誤射などが24人、最新の NY タイムズの世論調査では戦争が順調と思う人が44%から32%へと下がった」。

3月31日(月)

【NEWS 23】 金平支局長

「ラムズフェルド国防長官 作戦は順調??」のタイトルでレポート。政府・軍の発表をそのまま伝えるのではなく、先ず「アメリカで作戦計画に批判が出ている」ことを紹介。続いてラムズフェルド長官の混乱する弁明をVで「短期決戦(3/21)」「いつまで続くか判らない(3/26)」「地上軍日々増強、当初の計画通り(3/30)」「兵士数の判断はフランス司令官が作成」と日を追って伝えた後、戦争を支持するアメリカ世論の動向について「この戦争初めから勝敗が決まっているほど戦力に差。むしろ、むごい勝ち方(市民多数の犠牲)へ懸念」の一方、「世論・メディアには戦争への疑問ない」と伝える。

最後は「ピーター・アーネット記者『戦争は失敗』発言で、NBC解雇」と政府寄りの米メディアを象徴する事件を取り上げている。

4月2日(水)

【ニュースステーション】 田畑記者

「アメリカの思惑は」のタイトルで米政府の動向を伝え、「このままのペースで行っても戦争、5月下旬まで」と長期化への懸念で結んでいる。

4月3日(木)

【ニュースステーション】 田畑記者

「ヒッラの被害を NY タイムスが報道。しかし戦争報道の中では圧倒的に小さい扱い」「劣化ウラン弾の報道、アメリカ国内では見当たらず。アメリカのメディアで劣化ウラン弾使用に疑問呈する報道今のところなし。当事国のメディアになっている印象」と政府寄りの米メディアの状況を批判的に伝えている。

4月4日(金)

【ニュース10】 山下毅記者。

「“終戦のあり方”元国防次官が語る」というのレポート。湾岸戦争時、戦争終結に大きな役割を演じたというフレッド・イクレ元国防次官を紹介し、彼の著書「EVERY WAR MUST END」がパウエルに影響を与えたとしている。その上でイクレ氏の「早く戦争を終結させるべきだ」というインタビューを伝えた。

レポート自体は特段のことはないが、イラク戦争の焦点が、いつ停戦するかに移っている、と印象づける効果は生むかもしれない。

【NEWS23】 金平支局長

「ブッシュ大統領 人気のワケ」というレポート。ノースカロライナのキャンプ・ルジュン海兵隊基地でのブッシュ大統領の演説を取材。“まるでハリウッドスターを迎えるような熱狂ぶり”というスーパーに冷ややかな取材者の視線をにじませる。

兵士のインタビューでも「ブッシュはイラクの人びとにも温かい」「演説を聞いて私たちは良い事をしているという気になった」などの声を紹介。その無批判で、楽天的な兵士の雰囲気も伝えた。

さらに、アメリカではブッシュはトルーマン以来と評価する声があるが、第二次大戦と違うのは戦場からの悲惨な映像が連日伝えられるなかで、ブッシュをみるアメリカ以外の国の目は厳しくなっていると指摘、イラクの傷ついた子どもの映像をレポートに組みこんでいる。

「N10」がアメリカ政権内部の人物の単純な紹介であるのにたいし、この日の「N23」は、取材者の批判的視点が感じられるという点が印象的だ。

4月14日(月)

【NEWS 23】 ワシントン記者の座談会

アメリカの動向と追随する日本政府を問う。(具体的内容は第8章企画・特集欄)

【ニュースステーション】 田畑特派員

イラクの治安回復へ米軍の対応、暫定政権づくりへの影響、米政府のシリアへの激しい攻撃・圧力は何を狙うのかなどをレポート。

4月15日(火)

【ニュースステーション】 出町記者

「暗雲漂う『戦後経済』 株安どこまで～」と戦争の経済への影響を短くレポート。

第5章 戦況報道（V構成・記者レポートなど）

3月20日（木）、21日（金）については開戦直後のため、該当するものがほとんどない。

3月24日（月）

【ニュース10】

タイトル「開戦から3日間のまとめ」

英スカイニュースを使用、イラク南部の戦闘の生中継、デビッド・ボーン記者のレポート、米軍フランクス司令官、ブッシュ、フセインの声明や記者会見、世界各地の反戦デモも入れながら5分間にまとめたもの、客観報道。

【NEWS23】

タイトル「公開された米軍捕虜」

アルジャジーラ TV が米捕虜と遺体を公開、ラムズフェルド「ジュネーブ条約違反」と非難。

【ニュースステーション】

タイトル「本格攻撃はじまる」

バグダッド市街の空爆、米・イラク要人の発言、CNN 従軍記者のレポート「これはドラマではありません、実際の戦闘です」、アルジャジーラ TV の赤十字社50人死亡報道など、米・イラク双方の情報を公平に出す。

3月25日（火）

【ニュース10】

タイトル「まもなく重大な局面」

イラク南部で米兵10人、イラク兵数十人が死亡、英ブレア首相「まもなく共和国防衛隊と遭遇し、もっとも重大な局面をむかえるだろう」

イラク国营テレビ、カルバラ市民が氣勢を上げる様子を放送。

【ニュースステーション】

タイトル「米英地上部隊バグダッドまで80km」

フセイン、サハフ、アジズらの「闘う」発言、米フランクス司令官「順調」発言、投降したイラク兵、英下院議会でブレア首相「戦死者の遺族に哀悼の意を表します」、英国の世論調査（ガーディアン紙）イラク攻撃支持54%（1週間前は38%） など。

3月26日（水）

【ニュース10】

タイトル「バグダッドの住宅街に爆撃」

「今朝住宅街に爆撃、14人死亡、30人負傷した」

タイトル「反撃と砂嵐、米英軍阻む」

「はげしい砂嵐、米兵士インタ『目に砂が入り、息も出来ない』

イラク国営テレビ、米軍の無人偵察機を撃墜と放送」

【NEWS 23】

タイトル「迫る首都攻防戦」

バグダッド市内の久保田記者の電話リポート「いままでと比べものにならない位の空爆です。初めてハイテク爆弾が使われたようです」

「開戦以来最大の戦闘がナジャフであった。150-200人のイラク兵が死亡」

共同通信によると「カルバラでクラスター爆弾が使用された」

米捕虜となった兵士の映像、アメリカでは反戦気分が高まるのをふせぐため、この映像はほとんど放送されていないとのコメント。 4 '40 "

【ニュースステーション】

タイトル「バグダッド南で激戦」

「アメリカ側 イラク兵300人死亡と発表。イラク国営テレビの放送が空爆で一時途絶。バグダッド市内の市場を空爆、29人が死亡」など。

米軍が使用した可能性のある電磁波爆弾・クラスター爆弾などについて「N・S」は報道したが「N10」は全く報じていない。

3月31日(月)

【ニュース10】

タイトル「戦況・自爆テロなどイラク兵の抵抗激しさ増す」

「巡航ミサイル、イラク情報省を直撃」「ゲリラ戦と掃討作戦（砂漠の戦場で死亡した兵士を悼む米兵たち）」「米統合参謀本部マクリスタル作戦副部長の自爆テロへのコメント」「ナシーリア・イラク南部・バスラなどの米英軍掃討作戦」など米英軍の前線の動きを中心に141秒。

これに対しイラク側情報は被害には触れず「ラマダン副大統領会見」、アルジャジーラTVの「アラブ諸国から志願兵集結」の2項で31秒。

ほとんどコメントなしで映像とテロップのみの客観報道だが米英の動きを中心に伝えているのが特徴。

【NEWS 23】

タイトル「イラク戦争ドキュメント～週末からの動き～」

「米英軍イラク情報省を攻撃」は「N10」と同じだが、続けて「最大の誤爆か50人以上死亡、市場でミサイルと見られる爆発」とイラク側の被害、民間人の犠牲を取り上げている。

タイトル「進まぬ地上部隊」

「補給活動に遅れ、一日一食の部隊も」と米軍の窮状もきちんと伝え、「世界中で反戦」、「日本の難民用テント到着」のヨルダン情報など前線の動きだけでなく多角的に伝えようとしている。

【ニュースステーション】

タイトル「空爆の犠牲・自爆攻撃・戦場で起きていること」

「イラク市民の被害確実にひろがり」の視点で「週末の空爆バグダッド市内（アル・シュラ地区28日夜）」の棺を運ぶ市民の姿、「住宅街が・・・」と告発する米慈善活動家インタビュー、サハフ情報相会見「負傷107、殉死68」などを伝える。

また「14歳の少女が殺され家族も重傷」と伝えるアルジャジーラTVを引用、少年インタビュー「僕たちは台所にいてミサイル爆発、弟は内臓が出ていた」、アルジャジーラ記者「アメリカは清潔な戦争といていたはず」など市民の犠牲と告発の声を伝えている。

さらに「米ミサイル隣国サウジにも被害、米司令部記者会見、レニューアート『サウジ領土に数発着弾、発射行程見直し約束』」「前線部隊バグダッドまで100km足踏みしたまま、食事が一日一回になることも。ゲリラ、補給路寸断ねらい攻撃、増援部隊展開一ヶ月かかる」など米軍の誤射や窮状を伝える記者リポも入れている。

この日は民間人の被害・犠牲を重視した「NEWS23」「N・S」に比較して「N10」がイラク側の被害や犠牲にほとんど触れず米英軍の動きの方を大きく詳しくあつかっていたこと、

「NEWS23」「N・S」がいずれも米軍地上部隊の誤射や窮状に触れていたのに対し「N10」はその点に触れず、むしろ「死亡兵士を悼む米兵の姿」の方を伝えていることなど報道姿勢の違いがはっきり出ている。

4月1日(火)

【ニュース10】

AP通信従軍記者リポなどによる米英軍の前線の動きとアンマンからのサハフ情報相会見報道。

【NEWS23】

タイトル「米兵発砲、女性と子ども7人死亡」

「イラク民間人7人を誤射」のテロップ、ワシントンポストを引用「発砲後、小隊長に『もっと早く警告射撃しないから家族を殺してしまった』と叫ぶ隊長」発言の他、「1日シャトラでもトラック運転手射殺される。軍服の着用・武器所持なし」など民間人の犠牲を伝えている。

もう一本の「本格的な地上戦へ」では、「バグダッド南東80キロ激しい戦闘、ストレスのためカメラ前で芝居する兵士も」「自爆攻撃起こった中部では米軍一軒一軒探索、(AP通信)銃所持などで村人4人連行」、など公式発表とは別の米軍の生の姿も伝え、親米エジプト・ムバラク大統領発言「イラク戦争は100人以上のビン・ラディン氏登場させる」も紹介した。

【ニュースステーション】

タイトル「最前線 激しい戦闘が」

「ヒンディーア、人口8万人の都市で市街戦が。イラク側死傷者捕虜100人、死者5人以上、犠牲はイラク国民」とこちらでも民間人の犠牲に目を向け、フラッシュバックでブッシュ「日に日に勝利は近づいている」、(負傷したイラクの子数カット)、ラムズフェルド『連合軍はずば

らしい』、(子どもの遺体嘆く父親)、締めコメントは「アメリカが攻撃を始めて 298 時間、奪われた民間人のいのちは 420 人以上」

タイトル「最新情報」

「シャトラ、米検問所で海兵隊員が小型トラックを攻撃、非武装のイラク人男性 1 人が死亡」「サハフ情報相『人間の楯攻撃受け数人負傷、バビロンで空爆受け子ども 9 人が死亡』」と民間人の犠牲重視の視点からの報道、「イラク攻撃は犯罪」とするシリア政府のアメリカ非難声明で結ぶ。

この日も、前線の動きや公式発表を中心とした「N10」の報道と、イラク国民の犠牲を重視する「NEWS23」「N・S」の姿勢に際立った違いが読み取れる。

4月2日(水)

【ニュース10】

カルバラからABC記者リポ「1時間前、チグリス川渡ろうとして激しい抵抗に」「次の目標ユーフラテス、渡ればバグダッドまで 20 マイル」。さらに救出された女性兵士・米軍発表特殊部隊撮影映像>「米司令部、捕虜一人救出を明らかに」「怪我してるが容態安定とのこと」と米メディアの引用と、公式発表をそのまま報道。

【NEWS23】

タイトル「4月2日戦争ドキュメント」

「カルバラへ最大規模の地上戦」「女性捕虜を救出」までは「N10」と同じだが、「成果ばかりが強調されるアメリカの発表の陰でイラク国民の犠牲者が増えている」と続け「アルヒラ、クラスター爆弾(空中で数百個の小型爆弾に分かれ着弾)使用、民間人 33 人死亡 310 人負傷」を伝える。「イラク北部に展開するアメリカ兵からは補給・兵力による士気低下」の項では「戦争を始めたのはぼくじゃない。来たくてイラクに来たわけじゃない」とカメラに語る兵士の肉声も。

「“作戦に不備?” 批判に、この人からは責任逃れな発言も、(ラムズフェルド記者会見)」、「パリ郊外、反戦訴え石油会社のビル登る。反戦ヒーローのアラン・ロペール氏発言『国連の一員米英が戦争、これは非合法』」、「米英軍に暗雲、砂嵐『カシマーニ』の警告」など米英軍への批判的視点を据えた編集。

【ニュースステーション】

タイトル「バグダッド南方米軍が大規模攻撃」

「アメリカ軍、本格的地上戦開始」「フセイン、国営テレビ通じて徹底抗戦呼びかけ」までは他番組と同様だがその後、「イラク戦争の最前線、すでにこうした市街地にまで及んでいる」と民間人が巻き込まれることへの懸念で結んでいる。

もう一本「激しい空爆経て本格地上戦へ」も戦況報道は他局と大きな違いがないが、「ラムズフェルド記者会見、長官への批判相次ぐ」の項では、厳しい記者の質問の矢面に立つ長官と記

者団とのやりとりが詳しく紹介され、国際世論の米政府への厳しい視線を伝えている。

4月3日(木)

【ニュース10】

タイトル「米軍バグダッドから20km地点に」「最新の動き・カルバラ付近」2本のVリポ
両方で米ABCテレビをそのまま引用、「ユーフラテス川に架かる橋掌握」のコメント、初めて
戦車が渡るその瞬間の映像、隊員インタビュー「渡る途中攻撃を受けた。我々も反撃」、連隊長「あ
の橋は重要、政権の裏庭に入るよう」の後、「橋を煙で包む必要なし米軍に掌握された。フセイ
ン、軍をバグダッドに温存市街戦長期かも」とABC記者コメントをそのまま紹介。

「米中央軍発表『米陸軍ヘリ機、F16戦闘機一機墜落』『イラク側の攻撃で撃墜された』」
など米軍の被害も伝えてはいるが、キャスターのコメントも「北上続けるアメリカ軍第3歩兵
師団の一部サダムフセイン空港周辺に到達」「複数のルートで前進続ける」と米軍側視点の戦況
報道に。勿論、後半ではアルジャジーラTV「ヒッラで空爆の死者、病院関係者『子どもふく
む3人死亡、けが人は310人に』、赤十字国際委『市民がひどい攻撃』、米軍ヒッラで激しい戦
い、これまで以上に壮絶な戦い覚悟せねば」も引用、バランスは取っているが、この日の報道
は他番組ワシントン特派員などがしきりに「政府寄り」と批判する米メディアの無批判な多用
が目立つ。

【NEWS23】

タイトル「4/3イラク戦争ドキュメント」

「米軍2機墜落」を含め米・イラク双方の公式発表を伝えているが、最後を「産婦人科病院
も空爆、多数の死傷者出た模様」で結んでいる。

【ニュースステーション】

タイトル「救出されたジェシカ・リンチさん」

家族の喜びの声を伝える一方、「ジェシカさんの所属師団の12名は先月2日以来行方不明のま
ま」とコメント、フライシャー報道官『大統領は救出成功に国の名誉見出した、大喜びだ』が
一面的な空騒ぎに聞こえる編集になっている。

その後は「バグダッド市街戦に備えて市民が銃購入」、アルジャジーラTV「確実に増える犠
牲者産婦人科の病院でも。赤新月社母子病院が被害、数十人の市民が死亡」などバグダッド市
民の動きや被害を中心に伝えている。

4月4日(金)

【ニュース10】

“米軍 国際空港ほぼ制圧”という見出しで空港付近の米軍の戦闘を伝える。スタンスは前
日4月3日と変わらない。このほかフセイン大統領の声明や停電続くバグダッド市街と空爆な
ど。市内の民兵が「徹底的に戦う」というインタビューも紹介。

また“空港制圧の道のり”という項目で、米ABCの記者レポートを紹介。その中で「ウェ

ルカム、ウェルカム」と米軍に手を振って近づく住民の映像を伝える。後は夜の暗視映像。

これら米側の情報中心の部分とバランスをとる形で、続いてアルジャジーラテレビのリポート「侵略の戦争は危険な段階にきている」を伝えた。

この中でアルジャジーラはアメリカの攻撃で死者が出ていることを伝えるなど被害を重点にリポート。

【NEWS 23】

“空港をほぼ制圧”という項目を立て、戦況報道。内容は「N10」「NS」と大きな差はない。ナジャフでモスクに入ろうとした米部隊を民衆が阻止する映像は「NS」とまったく同じ。

【ニュースステーション】

“首都空港ほぼ制圧・バグダッド停電”の項目で戦況報道。CNNロジャーズ記者の戦場リポート。イラク軍の破壊された車など。フセイン大統領の声明、バグダッド停電の映像も。開戦以来の死者、米軍同士の誤爆などの事実にもふれる。

更にクウェートの内藤正彦記者が、バグダッド市街戦の見通しについて報告。「連合軍はあと一歩というところで手詰まり状態。イラクは、バグダッドで500万人の市民の命を盾にして足止めをかける作戦です」とコメント。

この日の戦況報道では各社の差異よりも、共通性の方が目立つ。「N10」がアルジャジーラの報道を併せて紹介し、他局との違いを見せている。

4月14日(月)

3番組とも「フセイン大統領の出身地ティクリートを制圧」を伝えていて大差ない。

4月15日(火)

【ニュース10】

タイトル「米軍制圧後のティクリート」

ABC記者のリポートを翻訳放送。フセイン大統領の出身地のティクリート制圧した米軍、宮殿で搜索する模様や検問の様子「ティクリートはイラク軍の最後の激戦地になるはずだった。米海兵隊はわずかな抵抗を受けただけで午前中に市の中心部まで進んだ。今やフセイン政権の象徴は単なる写真の背景になっている」のコメント。また、米軍のバグダッド市内での地下トンネル搜索の様子をリポ「張り巡らされたトンネルの奥へ」「物資を見る米兵」「弾薬や医薬品らしい大量の品物を発見」の字幕もあり。

【NEWS 23】

ナシリーアでの暫定政権協議の様子。「この会議はイラクの暫定協議機構の発足に向け、アメリカが内外の反フセイン派のイラク人組織に呼びかけて開かれました」「またこの会議が開かれているナシリーアでは会議に反対するイラク人などおよそ二万人が集まり市の中心部でデモを行いました。デモの参加者は『アメリカもサダムもいらない』と訴えるなど、アメリカ主導の

新政権づくりに対する不信感をあらわにしました」。

【ニュースステーション】

フセイン大統領の出身地ティクリートでの米軍の搜索の様子、「連合軍は先月20日の開戦から26日目。昨日イラク全土を事実上制圧しました」。またナシリーアでの反フセイン派による暫定政権協議のレポート。

第6章 戦況解説（スタジオ中心）

3月20日（木）

【ニュース10】 解説者・江畑謙介氏（軍事評論家）

「作戦のねらいはフセイン政権打倒と、大量破壊兵器の無力化。作戦上短時間で済むのは要人暗殺だが、今回の成否は不明。湾岸戦時に比べ、ハイテク化がさらに進化し、高い精度とリアルタイムで戦況把握が。次ぎの作戦は南部制圧と、大量破壊兵器の無力化をいかに早くできるかがカギ」

【NEWS23】 解説者・小川和久氏（軍事アナリスト）、浅井信雄氏（国際政治学）

「ミサイルの到達時間を考慮に入れて、タイムリミットの数時間前には既にミサイル発射、CIA情報で最終目標を選択したのでは」「ブッシュ政権は5年前にイラク解放法をつくり、フセイン抹殺を目的にする異常さ」

【ニュースステーション】 解説者・森本敏氏（拓殖大教授）

「米軍は3方向からバグダッド目指すが、南部からの進撃はダム、油田破壊、大量破壊兵器の危険が。北部もクルド、トルコ問題で容易でない。バグダッド攻略に1か月以上かかると民間人に犠牲が出て非難されるので、2週間から1か月の短期決戦で攻略もくろむ」

3月21日（金）

【ニュース10】 解説者・江畑謙介氏

「予想より早く地上戦を開始、イラク軍の抵抗弱く、史上例のない速さで進撃。補給が間に合うか心配。肝心なのは首都の占領で、首都さえ落ちれば、フセイン政権の支配体制は崩壊へ」

【NEWS23】 解説者・浅井信雄氏

「米軍の進撃が予想より速いのは、飛行禁止区域がイラク軍の空からの攻撃の妨げになっているから。首都防衛の十分な備えが見えず、抵抗がどれほどか予測できないが、堅固な建物を市街戦に利用することも」

【ニュースステーション】 解説者・コーデスマン氏（戦略国際問題研）、田岡俊次氏（アエラスタッフライター）

コーデスマン「イラクの反撃の弱さは驚き。イラク側のミサイルは大半が迎撃され、影響なし。共和国防衛隊の忠誠心がカギ」

田岡「B52の投入で今後首都への猛爆も予想、地上部隊も2、3日中にはバグダッドへ。南部のイラク兵もかなり抵抗」

「N10」メインゲストの江畑氏は軍事専門家だけあって、作戦の詳細な説明は的確な部分が多かった。しかし、「戦車隊の進撃が速くて補給が間に合うか心配だ」など、説明のいたるところに氏の米英軍への思い入れが顔を出し、米軍側の立場からバグダッド攻略がスムーズに進展

することを当然視する論評が目立った。また、衛星誘導爆弾などのハイテク兵器の優秀さの誇張が目立ち、これまでの実戦で検証された実際の命中率の低さ、全爆弾中のハイテク兵器の割合の低さ、さらには劣化ウラン弾やクラスター爆弾などの非人道的兵器の使用にも言及しなかった。

「N23」、20日は現地の実際の作戦展開よりも攻撃の性格づけや裏話に重点が置かれた感じ。21日は浅井氏がイラク軍の戦闘内容についてコメントしたが、両日とも戦況解説にしては通り一遍の感も。

「N・S」、20日は軍事評論家の森本氏が戦況分析、渡辺キャスターと説明のナレーションが米英の戦力、特にハイテク兵器の性能について、それぞれ詳しく解説した。特にナレーションで、トマホークが自ら軌道を修正しながら誤差数メートルで目標を攻撃すると、何の疑いもなく説明したのが気にかかった。また森本氏も3方向からのバグダッド攻略には、それぞれ障害があるものの、2週間ないし1か月の短期に制圧したいという米側の思惑に沿った解説をした。

3月24日(月)

【ニュース10】 解説者・江畑謙介氏、大野元祐氏（中東調査会客員研究員）

地図と写真で示しながら、江畑「バグダッドへ進行している米英軍は早すぎる」、大野「アメリカは要人をねらっていると発表している。イラクの情報操作は（1）人道主義に訴える（2）米国の世論への働きかけ（3）国民の士気高揚（4）アラブ社会との連帯」

【NEWS23】

軍事評論家の解説はなく、佐古アナの簡単な説明のみ

【ニュースステーション】 解説者・田岡俊治氏

地図を示しながら、「米英軍はイラク軍の作戦を甘く見ていた。15万の米英軍では簡単にはゆかぬ。今後の展開について、今まで砂漠の上を走っていたので早かったが、勝負はこれから。4～500万人の市街地に入って勝つという勝算が米軍にあるのだろうか」と。実証的というよりは、主観的な見方が多いのが気になる。

3月25日(火)

【ニュース10】 解説者・江畑謙介氏

米英軍の進軍状況、イラクのメディナ機甲師団の解説。「メディナ機甲師団、装備も古く、米に制空権を握られているので弱い。米軍は補給線を確保して本格的なバグダッド攻撃にうつる」など米軍情報にもとづいた解説。

【NEWS23】 解説者・小川和久氏（軍事評論家）

「イラクの米軍捕虜公開の情報戦は“イラクは人道的な国だ”という宣伝だ。これからは米英が望んでいない地上戦に入る可能性がある。イスラム教に忠実な女・年寄りも米軍に攻撃してくる可能性があり、そのとき米軍は対応しなければならない」「米軍は精密誘導兵器の空爆、

特殊部隊と情報機関をアフガン以来特に重視している。これで無用な殺戮を避けようというオペレーションをしている」

【ニュースステーション】 解説者・田岡俊治氏

「誤爆、誤射が多いというが、湾岸戦争のときは米軍の死者の1/4は自軍に殺された。フレンドリー・ファイヤーという。これから激戦が起きると、ますます誤爆、誤射が増えるだろう」「イラク側の戦力は古いかもしれないが、戦意は非常に高い、砂嵐が強いので、この2~3日アメリカ軍狩りをどこまでやるか見ものだ」と心情的にイラク軍寄りともとれる解説をしたのが気になる。

3月26日(水)

【ニュース10】 解説者・江畑謙介氏、大野元祐氏

江畑「米英軍は湾岸以来10年以上あの辺に展開しているので砂嵐対策はある程度できている。これから2万人のメディア部隊と対戦するが、どこに隠れているかわからないので時間がかかる。ここ2~3日が山場」

大野氏は共和国防衛部隊の組織を図解、防衛隊の訓練風景などを紹介しながら解説。

【NEWS23】 解説者・浅井信雄氏(国際政治学者)

「開戦1週間で当初いっていた速やかに終わらせるという言葉が聴かれなくなった。米軍も正規軍同士で戦えば圧倒的に強いだろうが、砂嵐とゲリラ戦には苦勞しているのだろう。アメリカでは当初戦争支持率が高かったが、長期化でガタツとさがる。カタールの米軍ではアメリカの爆撃の正確さを示すのに又ピンポイント映像を見せていたが、まだこんなものを見せるのかという感じがする。これからは新しい段階の情報戦が必要だと思う」。

浅井氏は米軍・米政府のやりかたを具体的に批判していた。

【ニュースステーション】 解説者・田岡俊治氏

「砂嵐で進軍のスピードが落ちる。米軍の最強の戦車が2台撃破された。ヘリコの援護がないのでやられた」

3月31日(月)

【ニュース10】 解説者・秋元千明 NHK 解説委員

模型使用の戦況解説。「米軍、クエートから400km前進、ユーフラテス川にかかる橋2箇所を制圧、4つの方向に別れてバグダッド睨もうとしている」「101空挺師団=『空の騎兵隊』、350機のヘリ所有、カルバラの北でメディア師団を攻撃、ナシーリアに米軍補給の要衝作ろうとしている」「米軍、前進より立て直して空爆強化、イラクの戦力そぐねらい」「部隊の展開集結で大規模な首都攻略作戦可能に」と米軍の視点での行動・作戦の解説に終始。

【NEWS23】 解説者・佐古忠彦キャスター

模型使用で「現在の戦況」を解説している。「最前線カルバラ付近、米101空挺師団、共和国防衛隊にヘリなどで激しい爆撃」と「N10」と同じような内容を伝えた後、「反体制派クルド

人武装部隊交戦することなくゆっくり北からバグダッドへ」「補給路寸断で米英軍のスピード鈍り長期戦の見方」など周辺の動きも伝えているのが若干の違い。

4月1日(火)

【ニュース10】 解説者・大野元裕氏

この日も地図使用の解説。「共和国防衛隊、最も精鋭部隊、一個師団12,000人程度だが人数割れ起こし8,000人切る部隊もある」以下、部隊配置、トップの大統領次男クサイ氏、イラク軍の指揮命令系統などイラク軍について詳しく解説、米軍の作戦と行動解説に終始した前日とのバランスを取っている配慮がうかがえる。

【ニュースステーション】 解説者・田岡俊次氏

「攻撃のポイント 橋と補給路」のタイトル。久米「イラク軍なぜ橋を爆破しなかった？」田岡「先頭の第3師団引っ張り込んで叩いてやろうと？」と推測の域を出ない解説が気になる。「米新しい橋かけて補給路拡大、しかしサダム決死隊が執拗に攻撃、輸送ヘリの空からの補給も順調とはいえない」「1個師団に1万台の車両必要といわれる。今でも大変、これからどうなるんだ。12万人の命綱伸ばし続けることできるのか」など、米英軍に厳しくイラク側に同情的になっている。

4月2日(水)

【ニュース10】 解説者・市瀬卓記者(NHK国際部)

地図使用で解説。「首都攻略に向け最大規模の地上戦開始、3つのルートから北上」「米空爆の50%以上共和国防衛隊に。『戦闘能力半分に殺いだ』『カルバラ、クートの線越えればイラク『化学兵器使用も辞さず』の姿勢、米軍すでに防護服つける」など、米軍の情報を中心とした解説。

【ニュースステーション】 解説者・田岡俊次氏

タイトル「米軍の進撃・田岡俊次の分析」

「『メディナ・ハムラビ師団の戦力50%に』、余り当てにならないかも(コソボの例引用)」「ラムズフェルドもともと5万ないし7万でやれると言っていた。妥協して12万で。それで足りないということは彼の言っていたこと事実で間違いと示され、自分で認めざるをえない。彼としては手持ちの兵力でおおむね勝負を決めてしまいたい」などの解説は、戦況の一面面でやむを得ない点もあるがやや正確さを欠いていたのではないか。

4月3日(木)

【NEWS23】 解説者・佐古キャスター

現在の戦況を地図使用で解説。「最前線部隊すでに化学兵器の防護服着用、早期首都攻撃か追加投入部隊待ちながら体制整えるか？」

4月4日（金）

【ニュース10】 解説者・大野元裕氏

大統領宮殿付近の市街地の地理や、イラク側の情報戦やバグダッドにおけるメディアの配置などについて。

なにか独自のスタンスで、というよりは、客観的事実の紹介中心の解説。

4月14日（月）、4月15日（火）は、3番組ともになし。

第7章 番組ゲスト

3月20日(木)

【NEWS 23】

小川和久(軍事アナリスト)、浅井信雄(国際政治)、岸井成格(毎日・編集委員)、薫信彦(ジャーナリスト)、十市勉(日本エネルギー研)の各氏

「戦争の正体」<1>米デモクラシーの野望<2>新パワーバランスの出現<3>世界への挑戦<4>あぶりだされた日本の姿。

小川「ブッシュのシンプルな信念を、ネオコンが覇権主義に利用」

浅井「中東に親米政権できればメリットがあるが、親米政権ほど独裁的という矛盾」

岸井「ネオコンが外交の方向づけ、仏・独はこれまでの民主主義と異質だと警戒」

薫「今回の事態で国際外交の柱が崩壊、日本はもっとイニシアティブを」

十市「米が中東に介入する度に問題が起きる。米国型民主主義の導入も同じ」

【ニュースステーション】

森本敏(拓殖大教授)、高橋和夫(放送大助教授)両氏と萩谷順コメンテーター(朝日・編集委員)

高橋「米は孤立しているが、世界も米が必要。修正するほかない」

森本「戦勝国の管理システムとしての国連を見直し、再建の知恵を出すべき。一国主義と国際協調主義の調和必要」

萩谷「独裁・人権抑圧への関与で足並み揃わず、結局、国連が共通の枠組みをつくるほかない」

3月21日(金)

【ニュース10】

畑中美樹(国際開発センター)、高橋和夫(放送大助教授)両氏

畑中「油田火災は短期なら影響少、拡大すれば石油価格の上昇に」

高橋「ブッシュは限定的攻撃を強調、フセインは健在をアピール。米は特定部隊を攻撃、政権トップと将兵を切り離すメッセージ」

【NEWS 23】

姜尚中(東大教授)、ダグラス・ラミス(政治学)、浅井信雄(国際政治)の各氏

姜「日米関係は二国間主義症候群で、日本がこの症状から脱却できないと、奴隷の平和に」

ラミス「帝国戦争は比喩でなく、文字通り帝国になるため。国際法も無視」

浅井「長期的に見て行方が不確かな戦争に、どうしてコミットするのか」

【ニュースステーション】

水口章氏(敬愛大助教授)と、萩谷順コメンテーター

萩谷「フセインに何かあれば政権崩壊というシナリオどおりには、なっていない」

水口「反米感情が中東で高まっている。先進国の反戦の動きが、米の軍事政策にどう影響するか微妙なところに」

「N10」は、中東、イスラム社会に詳しい高橋氏、大野氏らに、戦況解説まがいのことを説明させ、イラクの権力構造が攻撃でどうなるのか、諸宗派がどう反応するかなど、肝心の解説が不十分なままだった。

「N23」20日は、小川、浅井、岸井、鳶、十市の各氏という顔ぶれで、それぞれが自分の豊富な専門知識の上にたって、米の攻撃の目的やブッシュ政権の精神構造、今後の中東での米戦略の行方など多岐にわたって意見を述べ合った。米型民主主義を世界に押し付けようというネオコン主導のこの戦争が、中東でうまく行くとはいえないという各氏の指摘は説得力があった。21日はさらに、姜、D・ラミスの両氏が、この戦争の性格が何であるのかについて根源的な批判を加えるとともに、戦争の火花が次には北東アジアに及ぶ危険性について厳しく指摘するなど、旗幟鮮明な論陣を張った。

「N・S」20日は森本氏のほかに、高橋氏、萩谷氏の多彩な顔ぶれで、国連を中心とする国際社会における米の位置づけと、米の国際戦略について自説を展開した。この中で、森本氏が国連の機能の限界を強調したのに対し、萩谷氏らが国際紛争解決の場は結局国連に期待するほかないと指摘したのが目立った。

3月24日(月)

【ニュース10】

酒井啓子氏（アジア経済研究所）でテーマは「イラク戦争とアラブ世界」。

「イエメン、エジプトの反米デモやヨルダンの難民、それにパレスチナ問題とアラブ世界全体に反米感情が高まっていて、フセインはそれもリンクさせてアラブの世論を引き寄せたいのだ」と中東専門家としての意見をのべた。

【ニュースステーション】

寺島実郎氏（日本総合研究所）でテーマは「日本のとるべき立場」。

世論調査の戦争支持31%、不支持61%や街頭の声などを受けて、寺島氏は「憲法と国際協調で生きてきた日本はいま試練に立せれている」とのべ、日米同盟31%、国連優先49%の世論調査も受けて、「今後国連の協調路線について世界の人々は気がつくだろう」と発言した。

3月25日(火)

【ニュースステーション】

高橋和夫氏（放送大学助教授）でテーマは「イラク、複雑な構図」。

「イラクはクルド人の問題や宗派の対立があり、まとまらないという意見と、もう1920年から80年間ひとつの国としてやってきたのだからフセインがいなくなっても大丈夫だという意見もある。宗教と国家という2つのアイデンティティーでいつも中東の人々は揺れているの

だ」

3月26日(水)

【ニュースステーション】

酒井啓子氏

「アメリカにここまで攻撃され、祖国防衛戦争になっている。イラク人としてのナショナリズムが強く現れてきて『裏切り者になりたくない』という意識が市民の間にある」

3月31日(月)

【NEWS23】

小川久和氏(軍事アナリスト)

「アメリカ、世界でも最も補給兵站重視の部隊、入り口バスの海兵隊『一日一食』?何かイラク戦略そのものに病根が?」「米、湾岸では外交努力、息子の時代外交努力全くしない、粗雑思い上がりともいえる行動で戦争に。『イラク国民アメリカを歓迎する』との思い込みも。仮に開城しても後、敵に回したイラク国民との長期化、年単位で覚悟せねば」など、米軍への厳しい批判的な視点からコメントしている。

4月1日(火)

【ニュース10】

大野元裕中東調査会客員研究員。

ほとんどイラク軍の構成や指揮命令系統などの解説に終始、戦争の性格や本質を問うコメントはなし。

【ニュースステーション】

藤原帰一東大教授(国際政治学)。

特集「『民主化』という名の戦争」を受けてコメント。「長期化にはならない。背後に中・ロいたベトナムと違う」「民主化=アメリカの拡大」「ネオコン今後のアメリカの主流にはならない」「アメリカの今のような政策、不安定を招く。国際主義・外交の舞台に戻らざるをえない」など、戦争の性格・背景・アメリカの今後の動きなどにも言及している。

4月2日(水) 3番組ともなし

4月3日(木)

【ニュース10】

酒井啓子氏でテーマは「フセイン政権とクルド人」。

「トルコの一番の懸念、クルドの独立要求強まること。戦争を機会にトルコ軍、クルド自治区を軍事侵攻して自治侵害の恐れ」「パウエル、確約取ったけれど自由行動保障の裏取引の懸念

もクルドに」「バグダッド攻略南北から始まるとフセイン政権警戒を強め、クルドのキルクーク油田占領を心配、攻撃強めるのでは」「アラブの大儀掲げクルドの権利二の次、非国民裏切り者と湾岸前には化学兵器で攻撃」「バース=復興(ルネサンス)、もともとシリアにできた政党、イラクに対する同情論生む軸に、米英軍の党施設攻撃バース党の支配壊していくねらいが」など、アラブの実情とともに、戦争に至る背景などにも言及した「N10」の中では数少ない解説。

【NEWS 23】

寺島実郎氏(日本総合研究所)でテーマは「イラク戦後の世界、日本の選択」。

「戦後日本の50年の価値が試されている。武力を紛争の解決手段とせず国際協調を心に刻んで生きてきた日本が武力解決に拍手・支持したことへの衝撃大きい。小泉ははっきり説明せぬままアメリカ支持」

「独・仏はヨーロッパの存在浮き立たせた。日本の決定にアジアの存在あったか?仮に日本常任理事国になってもアメリカ支持の一票増やすだけと失望感。広島・長崎の経験持つ日本は、世界の大量破壊兵器壊滅への主張、テロ対策でもアジア東ねて国際刑事裁判所構想への参画などの呼びかけできたはず」

「米の抑止力の中での思い込みから重層的多角的外交力取り戻すことにもっと真剣に」など。イラク戦争にたいする日本のあり方に踏み込んだ分析で、イラク戦争報道全般を通じたゲストコメントとして内容のあるものの一つと思われる。

4月4日(金)

【ニュース10】

大野元裕氏(中東調査会客員研究員)が、バグダッド市街戦の見通し、イラクの情報戦略など解説。

情報戦でのイラク側のねらいについて、「報道をうまく使うのがイラクのやりかただ。たとえば国内の士気を鼓舞するのに使ってきた。二つ目はアラブの民衆をなんとか巻き込みたい、あるいは国際世論にたいして働きかけをおこないたい、人道的にイラク人がいじめられている、殺されている、そういった映像を流すことがそのひとつだ。もうひとつ、戦争がはじまってから付け加わったのは、アメリカの家庭、世論に向けて発信が行われるようになった。捕虜の映像などがそうだが、アメリカの世論に訴えかけて、なんとかアメリカ軍の足を引っばろうとする。イラクにはアメリカまで届くミサイルはない、だとするとこれはアメリカまで届く心理的兵器だ」という解説。

大野氏に限らず、イラク側の動きについて、このようなスタンスのコメントは多い。内容が事実を反映していない、というわけではないが、この種の客観的解説は、侵略を受けている国の実情について、すべて意図的に操作されたもの、という印象をあたえ、被害の実態について人びとの想像力を閉ざす効果があるのではないか。

【NEWS 23】

「この戦争」の正体」という連続コーナーで後藤田正晴氏にたいする筑紫キャスターのイン

タビユーを放送。後藤田氏のつぎのような言葉を伝える。

「この戦争の正当性は疑わしい」「自衛のためと、国連憲章第7章にある行動以外は軍事行動はやらん、というのが世界の約束事だ」「先制攻撃は成り立たない」「日米同盟は本来軍事同盟だ。軍事同盟は仮想敵国ソ連が前提。その仮想敵国がロシアに変わった、その時日米安保をどう考えるかを考えるべきだった」「日本はアメリカの“半保護国”で、外交、政治ともずるずる無原則になった」など。

4月14日(月)

【ニュース10】

外部ゲストは無く、国際部・市瀬記者が米軍の動向を解説。

【NEWS23】

朝日・西村、共同・会田、JNN・金平の「ワシントン記者にきく」。

<内容は第8章を参照のこと>

4月15日(火)

【ニュース10】

この日も外部ゲストはなく、国際部竹沢記者が、暫定統治協議にイラク人の有力な指導者の革命評議会ハキム氏、国民会議チャラビ氏などが欠席、参加メンバーを見て、先行きの容易でないことを解説。

「率直に言います、反フセイン派のまとまりの無さ、イラクの人々の支持が十分に得られていないと言うことを考えると前途は多難と言わざるを得ないと思います」

【NEWS23】

中村哲医師（NGO ペシャワール会）が「この戦争の正体」コーナーのゲスト。

イラク暫定統治はアフガンで破綻したように失敗を予言。

「これはですね、ヤバいですね。もしアフガンをモデルとして復興すると言うならば既に破たんしていると言う状況をイラクで再現することになって、これは絶望的だと」

【ニュースステーション】

外部ゲストではなく清水建宇コメンテーター（朝日新聞編集委員）。

「日本は中東では一度も領土的野心を示したことがなくて日本は本当に中立の立場だと思われて来たんですね。それが今回の一早い戦争支持でせっかくの中立だと思われて来た立場を失って、その上 ORHA に文民を派遣するのだと息巻くと、せっかく中東で持っていた日本の良い立場をまた失うのじゃないかと思うのですね」

表3 番組ゲスト

	ニュース10	NEWS23	ニュースステーション
3月20日		小川和久（軍事アナリスト）、 浅井信雄（国際政治）、 岸井成格（毎日編集員）、 篤信彦（ジャーナリスト）、 十市勉（日本エネルギー研） ～この戦争の正体～	森本敏（拓殖大学教授） 高橋和夫（放送大学教授）
3月21日	畑中美樹（国際開発センター） 高橋和夫（放送大学教授）	姜尚中（東京大学教授） ダグラス・スミス（政治学） 浅井信雄（国際政治） イラク代理大使（インタビュー） 「人間の盾」4人	水口章（敬愛大助教授）
3月24日	酒井啓子（アジア経済研究所） ～イラク戦争とアラブ世界～	～「バグダッド『人間の盾』に心境をきく」～	寺島実郎（日本総合研究所） ～日本のとるべき立場～
3月25日		大西健丞（NGO） ～イラクのクルド人の状況～	高橋和夫（放送大学教授） ～イラク複雑な構図～
3月26日			酒井啓子（アジア経済研究所） ～アメリカに攻撃され祖国防衛戦争に～
3月31日		小川和久（軍事アナリスト）	
4月1日	大野元裕（中東調査会客員研究員）		藤原帰一（東京大学教授）
4月2日			戦略国際研究所 イーラン・ウルマン博士 ～「作戦立案者が語る『衝撃と恐怖の』の現実」～
4月3日	酒井啓子（アジア経済研究所） ～フセイン政権とクルド人～	寺島実郎（日本総合研究所） ～イラク戦後の世界日本の選択～	新倉修（青山学院大学教授） ～米軍の用いる兵器 大いに異義あり～
4月4日	大野元裕（中東調査会客員研究員）	後藤田正晴（元自民議員） ～この戦争の正体～	
4月14日		朝日・西村記者 共同・会田記者 JNN・金平記者	
4月15日		NGOベシャワール会・中村医師 ～この戦争の正体～	

第8章 企画・特集

3月20日(木)

【ニュース10】

「ブッシュの決断」＝「私の使命は国民を守ること」 リポーター・山下毅記者（ワシントン）

「ブッシュは国家安全保障会議を召集、ラムズフェルド国防長官らがイラク攻撃を進言。フセインの居場所特定したCIAの諜報報告をもとに攻撃開始を決断。側近に私の使命は国民を守ることと語る。フセインの所在を確認し、攻撃の火ぶたが切られたとの報告を受けてテレビ演説へ」

【ニュースステーション】

「ブッシュ決断の決め手」＝「メディアへのリークか」 リポーター・田端正記者（ワシントン）

「攻撃決断に際し、フセインの所在を確認したブッシュは、いい気分だともらず。密室でのやりとりをテレビメディアが細かい所まで伝えられるのは、リークの疑いも。攻撃時期でメディアを使った陽動作戦を仕掛けた節も。こうした情報を横流ししている自分たちも、一プレイヤーになるこわさが」

3月21日(金)

【ニュース10】

「決断は3分前」＝「ブッシュはレッツゴー」 リポーター・山下毅記者（ワシントン）

「攻撃4日前のアゾレス・サミットからの帰国途上で、すでに最後通告の草稿づくり。米軍司令官は攻撃開始のデッドラインの前に、爆撃機を出撃させる。ブッシュはフセインの居場所の情報で、デッドライン3分前に攻撃決断、レッツゴーと攻撃命令」

【NEWS23】

「イラク代理大使インタビュー」 聞き手・筑紫キャスター

「攻撃は主権国家に対する侵略で正当化できない。目的は石油利権と中東での政治的優位に立つため。被害を受けるのはいつも民間人、日本人はイラク政権に親近感を持たないだろうが、戦争防止のためにもっと良い役割が果たせる」

【ニュースステーション】

「フセイン映像の真偽」＝「本物？影武者？眼鏡のフセイン」

原田康郎（ベルリン）「フセインには以前から影武者説、ドイツの法医学者は、過去の映像分析から少なくとも、3人の影武者の存在指摘」

イラク人通訳「本物と思う。きのうは緊張していた」

水口章「声紋分析が進んだ現在、ちゃんとしたものを出した方がいいと」

「N10」ワシントンの山下記者は両日にわたって、ブッシュの決断の裏側についてリポートしたが、完全な裏話のスタイルになっていて、CIAがブッシュ政権で力を取り戻し、ネオコンとの協力でブッシュを後押しした構図について、突っこんだ説明をしなかった。

「N23」21日はキャスターがシャキール臨時代理大使にインタビュー、大使はイラクに対する国際世論を冷静に受止めながら、戦争防止に向けた反戦運動への切なる期待を表明。

「N・S」21日フセイン演説の映像の真偽について、ベルリンの原田記者がリポート。ドイツの法医学者の研究をもとに、顔の特徴の違いから判別する方法について解説したが、結局、結論は出ずじまい。この手の企画の難しさを改めて感じさせた。

3月24日(月)

【ニュース10】

「イラク戦争の難民問題」(V構成) 5'00

日赤の難民救援センターの榎島医師の活動を紹介、「4日間で2万人の難民が出ている。戦争で一番被害を受けるのは一般市民だ」と語る榎島さん。

【NEWS23】

「バグダッドの『人間の盾』に心境を聞く」(V構成) 4'00

水道施設に配置された日本人4人(会社員、フリージャーナリスト、民宿経営、元ダンサー)の紹介とそれぞれの意見をきくもの。

3月25日(火)

【ニュース10】

「クルド人地域」現地に入った河野記者の報告(スタジオ中心) 8'00

「イラク北部で米軍を支援しているのがクルド人部隊、これまでフセインに弾圧されてきた」現地のNGOピースインジャパンが撮影した映像を使ってクルド人地域を説明。

【NEWS23】

「イラクのクルド人の状況」NGO大西健丞氏のテレビ電話リポート 4'10

(自分たちの撮影してきた映像を見せながら)「NGOは医療活動をしている、以前からクルド人と米の特殊部隊は協力してきている」

3月26日(水)

【ニュース10】

「人道援助～ある日本人の取り組み～」アンマンの井上記者リポート 4'00

「アンマンのユニセフ事務所、竹友有二さんは戦争の始まる直前までバグダッドにいた。『1991年湾岸戦争のとき難民を助けたいとユニセフに入った。バグダッドの現地スタッフは毎日できる限りの努力をされていて頭の下がる思いだ』と語った」

3月31日(月)

【ニュース10】

「イラク情報戦、CIAのたたかい～テネット長官を追う～」 リポート山下毅記者（ワシントン）

「ブッシュ政権の中で情報戦の主力を担うCIAテネット長官を追いました」で始まり「毎朝ホワイトハウスに報告」「ブッシュ大統領の絶大な信頼」「国連パウエルスピーチを支えた」「開戦直前の3/19ラムズに決定的秘密情報（フセインの動静）」「テネットの進言入れブッシュ最後通牒切れる48分前、フセイン狙う空爆命じた」と米政府内部の情報を詳しく伝えた後、ラストコメントで「情報武器にしてフセイン追い詰めるテネットの戦い、最後の局面を迎えている」と結ぶ。

他番組のワシントン特派員が、「意図的なリークはメディア操作の疑いも」と懐疑的、批判的にあつかっている内容を無批判に報告しており、比較すると相対的に肯定的あつかいと印象を受ける。

【ニュースステーション】

「焦りといらだち～米英政権中枢」 リポート 田畑正記者（ワシントンANN取材団）
ウォルフォビッツ国防次官「我々は敵を侮りすぎていたかもしれない」、ワシントンポスト引用「制服組と背広組の亀裂深まる」など米政府の足並みの乱れ、戦死遺族からウソつき呼ばわりされる英ブレア首相、品位と正確さが疑われる米ブッシュ大統領ラジオ演説『フセイン体制は恐怖支配、捕虜は残忍に処刑、戦い拒否者は殺され、米英軍に手振っただけで女性絞首刑』などを伝える。

この日の二つの特集は、客観報道に徹しているが批判的視点を感じさせず結果的に米政府の動きを肯定的に報道していると受け取られかねない「N10」と、米政府内部の足並みの乱れや国民の批判もきちんと伝えた「N・S」が対照的である。

4月1日(火)

【ニュース10】

「警戒のアメリカ・テロ対策最新事情」 リポート神子田竜輔記者（ワシントン）
短い企画で「連邦議会テロ対策用装備購入、特殊テント全米自治体から注文フル生産体制、アメリカは前線だけでなく国民もテロとの戦いに追われている」とアメリカ社会の動向を伝えた。

【NEWS23】

「名物記者解雇の理由」 リポート佐藤夕夏記者
NBCピーター・アーネット記者の解雇の経過とこの事件を受けて開かれた「戦争報道、メディアの役割は何か」をめぐるパネルディスカッションを取材、Q「なぜアーネットを解雇？」

CBCブラント記者「発言したのがイラクのテレビ＝フセインのプロパガンダの道具だったから」、Q「しかし国防総省やホワイトハウスの記者会見を連日流す彼らとどこが違うのか？」クラーク国防総省広報官「全く違います。アメリカのメディアは自由で独立。イラクのように国が運営しているのとはわけが違う」など興味深いアメリカのメディア事情や考え方を伝え、ラストコメントでは筑紫キャスターが「アメリカ側だって自由に取材できているわけじゃなくていろんな規制があったり追放されたり。問題は戦争になると国策報道というか、報道はその国の側につかなくちゃいけないということがあって、これが今度はまた厳しく出ている、メディアの中にも選択が迫られている」と戦争報道のあり方についての批判と自戒を述べている。

【ニュースステーション】

『『民主化』という名の戦争～パウエル長官とベトナムの記憶～』 Vリポ

ネオコンとは若干違う立場のパウエル国務長官にスポットを当てているが、ネオコン登場までの歴史や彼らの主張、イラク戦争開戦をめぐる米と仏・独との隠された駆け引き、ハンガリーの小さな村に置かれた亡命イラク人軍事訓練のためのキャンプ「フリーダム」など、イラク戦争の性格や背景を考える情報がむしろ光っている。パウエルについて国際戦略研ドミニク・モイジは「仏は突然パウエル見捨てた。パウエルもラムズフェルトも、軍事路線に違いないと気づいたからだ」と証言している。そのパウエルを、「ベトナム体験を教訓に国民の理解・支持しない戦争に黙って従うことはしない」人物とラストコメントしているのはパウエル過大評価の感がある。

4月2日(水)

【ニュース10】

「ヨルダン国境報告『祖国に戻る人々』」 井上祐司記者

Vリポで「ヨルダン政府設置のキャンプ、2万人収容だが今のところ空」「戦争開始後帰国イラク人増加、ヨルダンから6000人」「アンマン・バグダッド直行の無料バス、イラク大使館によって」「危険冒しての里帰り、切羽詰った思いが」と伝えている。

もう一つの企画は「今イラクの人々は」 スタジオ中心・国際部竹沢顕記者

「難民、イラク戦争では14人、湾岸戦争200万人」の背景などを解説。その中で「一日ヒッラ空爆、民間人33人以上が死亡」のVリポをはさみ、イラク人医師の「イギリスの友人たちよ、この惨状見て！英米によって何が行われているか。そして抗議して！」という訴えが紹介されている。ラストではアメリカの懸念＝自爆攻撃・米兵の過剰反応と併せて、今後市民巻き込まれる懸念をコメントするなど「N10」では比較的少ないイラク市民の動向を詳しく伝えた企画。

【NEWS23】

「韓国イラク戦争派兵を可決」 リポート梶井正人記者

短いリポートだが「ノムヒョン大統領派兵決める」「派兵反対のデモ」「賛成179、反対68、棄権3」と韓国の現状を伝え、デモ参加者インタビュー「媚売ってもアメリカ私たちに耳傾け

ない」で締めくくり、戦争に批判的な声を伝えている。

【ニュースステーション】

「作戦立案者が語る『衝撃と恐怖』の現実」 インタビュー戦略国際研究所ハーラン・ウルマン博士

「原爆使わず長崎・広島と同じ心理的打撃、軍事技術発達で可能に。最初の一撃が重要」「バグダッドの政権中枢を狙った小規模な一撃、これは間違っていた。『衝撃と恐怖』は機能せず長期化の可能性高くなった」などの作戦解説インタビュー。ラストコメントを「孫子の教え、アメリカに耳の痛いことも。『君主は一時の怒りの感情から軍を起こして戦争を始めてはならない』」と結び、アメリカの開戦への批判で結んでいる。

もう一つの企画「兵士の息子と父・それぞれの戦い」 Vリポ

「侵攻4日目、ワシントンのベトナム戦争慰霊碑前で300人ほどのイラク戦争に反対するベトナム帰還兵、退役軍人の集会」を取材、そこに参加していた一人息子をクウェートへ送り出したベトナム帰還兵をリポート。アメリカ社会でも戦争に反対する人々のいることをきちんと伝える姿勢が感じられる。最後は『アメリカにはスマートボムでなく、スマートリーダーが必要なのです』というベトナム帰還兵インタビューでアメリカ指導層への批判を代弁させていた。

4月3日(木)

【ニュース10】

「湾岸後アメリカに脱出したクルドが語るフセイン政権の実態」 リポート神子田竜介記者(バージニア州から)

「湾岸後イラクの空爆に毒ガス浴びせられるのではないかと」「フセインの写真飾ってないと治安当局に判るとどんな目にあうか」などフセイン政権のクルド弾圧の実態を伝えている。

【ニュースステーション】

「米軍の用いる兵器大いに異議あり」 Vリポ

久米キャスターが始めに「米軍、イラクの大量破壊兵器破棄のため開戦。しかし一瞬で多くの人殺害するのは米軍使用の兵器。戦争に正義なし」とコメント。

ナレーションでも『大量破壊兵器見つからない』と指摘。

デージーカッター・クラスター爆弾・劣化ウラン弾などの威力・被害・使用状況などを伝え、青山学院大新倉修教授が「ハーグ条約『一般的に無差別不必要な苦痛与える兵器禁止』、当てはまれば違反。しかし米、違反とは言わず」「1996年国連人権小委員会非人道兵器使用禁止決議、アメリカのみ反対」などのコメント。

ナレーションで「こうした兵器は国際法に違反しないのだろうか」と疑問を呈している。

タイトルからもうかがえるように、米軍への批判を明確にしている。

4月4日(金)

【ニュース10】

「“もうひとつの戦争” イラクの情報戦」 一矢好彦記者(アンマン)

イラク国営テレビの活動とアメリカ軍の国営テレビ攻撃など、情報戦の状況をレポート。

アメリカ軍のテレビ局攻撃の理由などを米中央軍会見で伝えるとともに、イラク国営テレビが、移動式のアンテナを使い、アラブ系衛星を経由しての放送を復旧したと報告。

【ニュースステーション】

特集「ナジャフのモスクで米兵VS民衆」

モスクに入ろうとした米兵をナジャフ市民が押し返したニュースから、湾岸戦争以来のイラク戦争で、モスクがどんな役割を果たしかにふれている。

この企画ニュースのなかには、「敵を追い詰めながら、次の一手に踏み切れない現状、しかしこれこそがイラクの戦略だった。イラク側は戦争のたびにモスクを利用してきた」というナレーションがあり「侵略はしたくない。神聖な場所に敬意を払いたんだ」と語る米兵のインタビューが組みこかれている。

モスクはやっかいな存在であり、イラクは聖地を利用している、という、アメリカ軍の軍事行動遂行上の立場が自然に身についた感じのレポート。

このほか特集「ヨルダン人義勇兵戦死に母は」

周辺国からの義勇兵の存在と、その悲劇を伝えている。義勇兵だがイラク側の戦死者に関する企画は珍しい。その中で、戦死した兵士の母親の「イラク戦争が悪いことだというのは世界中の人が感じています。息子も同じだったと思います」という言葉を伝えている。

4月14日(月)

【ニュース10】

「軍の動向と暫定政権を立ち上げるための治安回復について」 スタジオで今井キャスターが司会役で国際部・市瀬記者が解説。

「テイクリートはフセイン支配の最後の都市、制圧したがすぐ勝利宣言はない」「大量破壊兵器は探し出し、テロ組織との関係も突きとめねばならない」という米軍の見解を紹介する。米軍の8つの目標の中、「政権の打倒、大量破壊兵器、暫定政権」の3つをスタジオにパネル表示し説明する。フセイン政権の幹部の探索用カードに1分以上の時間を使ったが、大量破壊兵器については10秒だった。

「暫定政権を立ち上げるのに不可欠な治安の回復だが、その脅威となっているのが自爆テロ」とする。脅威になっているのは“自爆テロ”だけなのか。

【NEWS23】

「ワシントン記者にきく アメリカの進む道は？」 3人の記者の対話で構成。

フセイン像の倒される映像の感想をもとめ「戦争の負の側面を覆い隠すもの。“解放戦争”として正当化しようとするアメリカの姿が浮かび上がった」と指摘する。3月20日の「米国の

武力行使開始を理解し支持いたします」という小泉首相の一番早い支持発言を紹介し、シラク・ブレアと比較。

「立場の違いはあるとしても、シラクやブレアは自分の言葉によって議会、メディアを説得しようという気概が感じられるが、小泉首相、川口外相には自分の言葉で説得しようとする気概がワシントンから見ていて感じられない。」「本当のアメリカ人は『日米関係だけ大切にする日本であってほしくない。なぜ、賛成するのか、賛成できないなら、自分の言葉と論理で言ってくれ』と思っている」

「これから何が大切か、アメリカの過信がアジアにきた時、日本は極東の英国として行動を共にするのか、極東のフランスとして異をとるのか？北朝鮮危機のときの選択が問われている」と日本の今後について問いかけている。

4月15日(火)

【ニュース10】

「竹沢記者解説」

イラクを中東地域における親イスラエル国家化・親米石油資源国家化しようとするアメリカの狙いと諸国の懸念・反発を伝える。〈別項でも重複して触れた〉

【NEWS23】

シリーズ「この戦争の正体」 〈別項でも重複〉

アフガニスタンへの米軍攻撃、占領との比較をベシャワール会の中村哲医師と対談で。

【ニュースステーション】

「戦争の大儀発見できず」

ほぼ占領状態になっても大量破壊兵器が発見できていないことを検証する。また、シリアへの圧力を強めるアメリカの姿勢をレポート。

「アッバス君は今」

アメリカの空爆で家族10名(全員)と両手を失った少年アリ・アッバス君のその後を追うレポート。アッバス君「僕を殺すことが解放なの？この先どう生きればいいのか？」

「消えた政権幹部」

イラク政権下での厳しい情報統制(=諜報省によるもの)を検証しその政権幹部たちがどこへ消えたかの追跡レポート。

「占領統治と日本」

占領行政への日本の参加が憲法に抵触するとの指摘を紹介。イラク復興支援金の供出問題と復興人道支援室(ORHA)への人員参加を考える。

「ある海兵隊員の死」

日本人を妻に持つ海兵隊員のホームビデオにより「兵士の戦死」と家族を見つめる企画。「ジエームズさんは家族の幸せを守るために戦争に行き命を落としました」「夫がいてくれるだけで幸せなのになぜ自らの命をかけてまで戦争に行ったのか」静かな反戦メッセージを含む。

表4 各番組の企画・特集

	ニュース10	NEWS 23	ニュースステーション
3月20日	「ブッシュの決断～私の使命は国民を守ることだ～」 (ワシントン山下記者)	「この戦争の正体」 (ゲスト浅井信雄、岸井成格、篤信彦、十市勉) 多事争論「世界が変わった日」(筑紫キャスター)	「ブッシュ決断の決め手」 (ワシントン田端記者)
3月21日	「決断は3分前 ブッシュはレッツゴー」 (山下記者)	イラク代理大使インタビュー (久米キャスター)	「フセイン映像の真偽『本物？影武者？』」 (原田康郎、水口章:声紋分析者)
3月24日	「イラク戦争の難民問題」 (日赤難民センター 横島医師)	「バグダッド『人間の盾』に心境を聞く」 (「人間の盾」4人)	
3月25日	「クルド人地域」 (河野記者)	「イラクのクルド人の状況」 (NGO 大西健丞)	
3月26日	「人道援助～ある日本人の取り組み～」 (井上記者)		
3月31日	「イラク情報戦 CIAの闘い～ケネット長官を追う～」 (山下記者)		「焦りといらだち～米英政権中枢～」 (ワシントン田畑記者)
4月1日	「限界のアメリカ・テロ対策最新事情」 (神子田記者)	「名物記者 解雇の理由」 (佐藤夕夏記者)	「『民主化』という名の戦争～パウエル長官とベトナムの記憶～」
4月2日	ヨルダン国境報告 「祖国にもどる人々」 (井上記者)	韓国イラク戦争派兵を可決 (梶井記者)	作戦立案者が語る 「衝撃と恐怖」の現実 (ハーラン・ウルマン博士)
4月3日	「湾岸後、アメリカに脱出したクルド人が語るフセイン政権の実態」 (神子田記者)		「米軍の用いる兵器 大いに異議あり」
4月4日	「"もう一つの戦争"～イラクの情報戦～」 (矢野記者)	「この戦争の正体」 (後藤田正晴:元自民党議員)	(1) 「ナシャフのモスクで米兵VS民衆」 (2) 「ヨルダン人義勇兵戦死に母は」
4月14日	「米軍の動向と暫定政権を立ち上げるための治安回復について」 (国際部 市瀬記者)	「ワシントン 3人の記者にきくアメリカの進む道は？」 (朝日・西村 共同・会田 JNN・金平)	
4月15日	「暫定統治協議会の発足と厳しい前途～米政府の主導権、イラク周辺国は警戒」 (国際部 竹沢記者)	「この戦争の正体」 (NGOベシャワール会 中村医師)	「戦争の大義 発見できず」 「占領統治と日本」 「アッバス君はいま」 「ある海兵隊員の死と日本人妻」

第9章 自局（系列社含む）従軍記者レポート

3月20日（木）

【ニュース10】

<米第3歩兵師団・油井英樹記者>

「クウェート北部に駐留していた米軍もイラク国境へ向けて続々と兵士を派遣。同行している部隊も、あすは国境へ移動しイラク南西部から北上、バグダッドを目指す。米軍は、イラク軍の士気は低く大勢の兵士が投降すると見ているが、生物・化学兵器を使う懸念から、米軍兵士に防毒マスク、防毒スーツの着用を義務づけて警戒」

<空母キティホーク（ペルシャ湾）・津屋尚記者>

「5時間前から艦載機の出撃開始。F18A、F14などが目標を正確に攻撃できる衛星誘導爆弾を搭載して次々に離艦し、艦に戻った機は搭載した爆弾がなくなっていることから、イラク空爆に参加したようだ。艦内では地下施設を攻撃するための爆弾も準備され、今後さらに大規模な空爆が行われる見込み」

【NEWS23】

<米空母トルーマン（地中海）・向山明生記者>

「艦載機の大半が第2波の空爆に参加の予定で、精密誘導爆弾を装着済み。攻撃を効果的、連続的に実施するため、僚艦同士で時間帯シフトまで決めている。第1波攻撃では、同艦隊のイージス艦からトマホーク発射、今後も巡洋艦、駆逐艦から大量のミサイル発射を予定」

3月21日（金）

【ニュース10】

<第3歩兵師団・油井記者>

「イラク国境に近いクウェートの砂漠地帯を軍用車で北上中。間もなくイラク領内へ。今日中には同行の歩兵第3師団2万人がイラク領内に入り、バグダッド目指して北上の予定。30度を超える猛暑の中、イラク軍が生物・化学兵器を使う事態に備え、全兵士が防毒スーツ着用。米軍側は進撃が順調なことから、イラク国内に入っても大規模な襲撃はなく北上できると期待」

<空母キティホーク・津屋記者>

「空母キティホークは空爆を再開、F18Aなどがハイテク兵器を搭載して次々に飛び立つ。司令官は『イラクの防空能力は脅威になっておらず、我々は地上部隊と連携して作戦展開中』と語る」

【ニュースステーション】

<空母キティホーク・田辺宏記者（共同通信）>

「開戦を受けて艦内は緊張が高まる。イラクへ向けてF18A戦闘機が精密誘導爆弾を抱えて次々に飛び立っている。きのうは91機、今日は100機の予定」

「N10」 第3歩兵師団の油井記者は、支援部隊同行ということもあって、比較的冷静に進撃の様子を伝えたが、イラク側が生・化学兵器を使うかも知れないという、米軍広報と、防毒スーツ着用については、身びいきなコメントも見られた。キティホークの津屋記者は、発進する攻撃機が搭載する爆弾について、衛星誘導の性能を一方向的に説明するだけで、爆弾が実際には多くの民間人を殺傷する事には全く思いを致さないコメントを繰り返した。また、爆弾が劣化ウランを使っていることや、クラスター爆弾を含んでいることについて、予備知識がなかったのか最前線取材としては、勉強不足の感があった。

「N23」地中海の米空母・トルーマンから、20日向山記者がリポート。米軍発表の内容以外、記者自身の取材の深さ感じられず。取材制限の厳しさの証か。

「N・S」は同行記者を出さなかったため、20日は第3歩兵師団に同行しているCNN記者がリポートしたが、砂漠の環境の悪さを強調しただけ。戦争のきびしさは伝わらず。21日は共同通信の田辺記者がキティホークからリポート。ここでも、艦載機の出撃状況を説明しただけ、劣化ウラン弾やクラスター爆弾のことには全く触れず。情報統制のせい、事前の取材不足のせい。

3月24日（月）

【ニュース10】

<第3歩兵師団・油井記者>

ナジャフへ向かう様子を顔写真とボイスリポートで。

「砂嵐がひどい、イラク軍の反撃に米兵がおどろいている」

<空母キティホーク・津屋記者>

ビデオフォン映像リポート。

「空母から69回の出撃があり、18発のレーザー誘導爆弾が投下された」

3月25日（火）

【ニュース10】

<第3歩兵師団・油井記者>

ナジャフ郊外からビデオフォン映像でリポート。

「砂嵐で補給の速度を遅くせざるを得ない、安全な地域ではない」

<空母キティホーク・津屋記者>

この日もビデオフォン映像のリポート。

「今私のうしろをF A 1 8 攻撃機が出撃のため動き出している、24日から25日にかけて15機のF A 1 8がカルバラ周辺に26発の衛星誘導爆弾を投下し、共和国防衛隊の弾薬庫を攻撃した」

3月26日(水)

【ニュース10】

<第3歩兵師団・油井記者>

ナジャフ郊外からビデオフォン映像のリポート。

「今日もはげしい戦闘があり、イラク軍に300人の死者が出た。アメリカ軍は死傷者の中に民間人はいないと発表」

<空母キティホーク・津屋記者>

ビデオフォン映像リポ。

「25日から26日にかけてバグダッドまで100キロのカルバラで地上部隊を援護するため、F A 1 8機が悪天候でも正確に攻撃できる衛星誘導爆弾を投下した。攻撃の目標はぶあついコンクリートでおおわれた司令部やミサイルを搭載した車両にまで広げられている」

米軍発表の高性能爆弾を投下したとリポートするが、落とされる側には一般市民の存在があることを全く意識しない内容になっている

3月31日(月)

【ニュース10】

<第3歩兵師団(ナジャフ)・油井記者>

「米軍、同行する総ての取材陣に衛星電話の使用禁止、没収も検討」と米軍の報道規制を最初にリポート。「ドイツから派遣されたヘリ部隊到着、バグダッド包囲網に備え補給路警戒を強化」を伝える。

<空母キティホーク・津屋記者>

「艦載機、30~31日59発の爆弾投下。戦車・装甲車など、フセイン大統領関連施設も」と空爆を伝えているが、「クラスター爆弾」「劣化ウラン弾」の用語は使わず「ハイテク兵器」と呼んでいる。

【ニュースステーション】

<イラク・クエート国境・ANN取材団内藤正彦記者>

作戦行動のほか、「米英軍の出撃拠点にイラク反撃」（「米軍キャンプ地内でトラック突っ込み15人ケガ」）を報道。

「米軍ルメイラ油田の取材許可」で現地取材。「消火活動に約100人ブッシュ大統領の地元
の民間会社が参加」「イラク軍破壊の証拠は公開せず」など独自の視点からもレポート。

4月1日（火）

【ニュース10】

<ナジャフ郊外・油井記者>

「第3歩兵師団補給基地にミサイル着弾の緊急連絡、被害一切なし。固定した駐屯地にターゲットと懸念・警戒強める」「自爆テロ警戒、全ての人を車から降ろし武器確認、車も捜査。31日米兵、民間人の車に発砲、女性子ども7人死亡。米軍、反米感情の高まり、フセイン政権と一般市民の結束だけは避けたいと考えている」といずれも米軍の懸念を伝えている。

<空母キティホーク・津屋記者>

「ピンポイント攻撃のレーザー爆弾付けた攻撃機次々に飛び立つ」「あらゆる作戦同時並行的に。激しさもます」など作戦行動のみのリポ。

【ニュースステーション】

<カルバラ・共同通信儀間朝浩記者>

「インスタント食品20種、そろそろ飽きが。水はペットボトル、今のところ深刻な状況にはなっていない」と作戦行動報道とは別に兵士の様子を伝えている。

<クエート・ANN取材団内藤正彦記者>

「補給路ではゲリラ戦、西側砂漠ルート今後余りにも過酷」と米軍の直面する困難を報道。「アラブ諸国の新聞テレビ、反米一色。各国首脳アメリカに反論、アメリカの独断に疑問から非難へ」と周辺の動きも伝えている。

4月2日（水）

【ニュース10】

<第3歩兵師団（ナジャフ近郊）・油井記者>

「生物化学兵器使用の危険高まると予防薬飲み始め、取材陣にも飲むこと求められている」「未明にもイラク軍ミサイル攻撃、パトリオットで撃墜、警戒強めることに」

<空母キティホーク・津屋記者>

「これまで最大規模の空爆、100発越える爆弾投下、メディナ師団戦車など集中攻撃。司令官、余力を強調『我々の出撃ピークに達せず』。F14戦闘機一機故障で墜落」

いずれも米軍の作戦行動・指示・発表をそのまま忠実に伝える。

4月3日(木)

【ニュース10】

<第3歩兵師団(ナジャフ近郊)・油井記者>

補給基地前線レポート。

「前線に近いここにC130着陸させたい。隊員『作業は24時間体制、早期完成命じられている』と滑走路建設を伝え、「特殊部隊活動、昨日新たに5人ヘリから。取材に任務明らかにせず」

<空母キティホーク・津屋記者>

「米攻撃機墜落、空母に衝撃。空母報道官『パイロットの安否不明、墜落原因調査中』、イラク側に撃墜された可能性。記者全員集められ『捜索中』。以後8時間外部との連絡禁止」と事実のみ報道だがラストに一言「深刻な事態伺わせる、撃墜確認されれば作戦見直しも」と記者見解。

【ニュースステーション】

<カルバラ近郊・儀間朝浩記者>

「首都決戦に向けて・・・米軍VSイラク軍」「目の前で大砲が火を噴く、耳栓なしではいられません」と記者自身の感想。

<クエート・ANN取材団内藤正彦記者>

「共和国防衛隊本当に壊滅?」「壊滅より封印が正しい。死者・押収武器数不明」「共和国防衛隊、カルバラ、ナジャフではモスクに立てこもり連合軍包囲したまま進撃。部隊再編反撃の可能性も。バグダッド攻略に時間かかるのはこのため」と、壊滅発表への疑問を投げかけ。

この期間の従軍記者レポートは、各局比較すると「N10」が分量的に一番多いこと、「NEWS23」は記者を派遣しているのも関わらず1本しか出していないことが目を引く。内容も「N10」が米軍の発表や作戦行動をほとんどそのまま忠実に報道していることが多いのに対し、「N・S」記者の場合、独自の記者の視点が織り込まれることも多い。

4月4日(金)

【ニュース10】

<空母キティホーク・津屋記者>

空港制圧を空母艦載機が支援したとレポート。その中で、アメリカ軍の攻撃が「作戦の指揮機能をイラク空軍から奪うことで、イラクが無人の小型機を使って空から生物化学兵器を撒き散らす攻撃に出ることを防ぐねらいがあるものとみられます」とコメント。

アメリカ軍がこう言っている、という事実の伝達ではなく、記者が、独自の判断として、イ

ラクが生物化学兵器を使う可能性がある、という立場にたっていることを示す。それを防ぐためのアメリカ軍の戦闘行為が肯定的にコメントされている。

4月14日(月)、4月15日(火)

3番組ともなし

表5 日本のマスメディアの従軍記者

メディア	エンベッド先	従軍記者
NHK	米陸軍第3歩兵師団	油井秀樹記者
	空母キティホーク	津屋尚記者
日本テレビ	米陸軍第3歩兵師団	今泉浩美記者
TBS	空母ハリートルーマン	向山明生記者
		(途中撤回)
フジテレビ	米陸軍101空挺師団	小川正己記者
テレビ朝日	派遣せず	
テレビ東京	派遣せず	
朝日新聞	空母キティホーク	石原剛文記者
	第1海兵師団歩兵部隊	野嶋剛記者
読売新聞	空母キティホーク	本間圭一記者
	機甲師団(ドイツ駐留)	展開の遅れで参加せず
毎日新聞	空母キティホーク	井上卓也記者
東京(中日)新聞	空母キティホーク	大島宇一郎
共同通信	空母キティホーク	一名
	米陸軍第3歩兵師団第110砲兵部隊	二名

* キティホークには、東京、共同、NHKは記者のほかカメラマンが同乗した。(NHKはカメラマン2名)

第10章 米中央軍司令部（カタール）レポート

3月20日（木）

【ニュース10】<榎原美樹記者>

「開戦後10時間以上経っても、フランス司令官会見の気配なし。メディアセンターでは各国報道陣が待機。英軍報道官は20日、イラク軍がスカッド・ミサイル1発を含む2発（誤読？）のミサイル発射、スカッドは迎撃で破壊したと説明。今入った米軍情報では、計4発のミサイルを確認。いずれも生・化学兵器搭載という情報なし」。

【NEWS23】<竹島史浩記者>

「米軍の空爆に対して、イラク軍が米軍最前線にミサイル攻撃。米軍情報では、クウェート北部に3発のスカッド・ミサイル発射、1発は撃墜、残りは砂漠に着弾。いずれも生物・化学兵器は搭載されていなかったが、クウェートの首都には空襲警報が。標的になった米軍では兵士に化学防護服の着用命令。これとは別に複数のスカッドがクウェートに着弾という情報も」

【ニュースステーション】<川端進記者>

「開戦後、メディアセンターでは記者会見は1回も行われず、発表文だけ。発表では第1波攻撃に参加した駆逐艦、巡洋艦などの艦名などを明らかにしただけ、詳細は分からず。英軍・広報担当はイラクが3発のミサイル発射、1発は撃墜、被害なしと伝える。事前の説明と違って記者会見が開かれないのは、攻撃結果の分析に手間どっているか、本格的攻撃は始まっていないと米軍が認識か」。

3月21日（金）

【ニュース10】<榎原記者>

「司令官による会見はまだ行われず、作戦の全容を把握できない。英軍からの情報では、英軍は南部アルファウ周辺を制圧し、石油関連施設を確保。次ぎは港湾都市ウムカスルに進出して、人道支援物資の輸送を可能に。今後は主要都市バスラの攻防が焦点で、イラク軍の抵抗が軍事作戦の行方を見きわめる上で重要に」。

【NEWS23】<福本芳朗記者>

「米軍はバグダッドと南部主要都市バスラに進撃、南部の港湾都市ウムカスルの一部を占領し、250人のイラク兵を捕虜に。バスラ周辺でも戦闘の様相。南部で米兵1人が死亡。米軍は西部、北部からもイラク領内に、三方から首都攻略めざす。英PA通信は『西部の2飛行場制圧、フーン国防相がイラクが30の油田に放火と発表』と報道。BBCはキルクーク油田確保と報道」。

【ニュースステーション】<川端進記者>

「司令官会見による戦況説明なく、広報官が非公式に説明。英広報官は、英軍がアルファウ周辺を制圧、パイプラインを管理下に。ウムカスルではイラク軍が激しく抵抗して交戦、数十

人のイラク兵を捕虜にと説明。米軍発表ではヘリ1機が墜落、英軍発表では12人が死亡」。

「N10」記者は、他局記者と同様、司令官の記者会見が開かれないことなど米軍広報の姿勢は批判したが、戦況に関する米英軍発表はそのまま伝えるだけで、メディアセンターでテレビで伝えられるアラブ系メディアの情報には、ほとんど触れなかった。

「N23」20日は竹島記者が他局の記者同様、クウェートをイラク軍がミサイル攻撃したことや、米英軍が南部の拠点を押したなど、米英軍発表の内容そのままりポート。ただ、21日の福元記者は英BBCなどの情報も併せて伝えた。

「N・S」は、米軍の広報体制の不備について20日、21日とも指摘したが、米英軍情報をもとに、第1波攻撃の規模や南部でのイラク拠点制圧などのニュースを、発表どおりレポート。イラク兵の捕虜の数がTBSと違うのはなぜだろうか。

3月24日(月)

【ニュース10】<榎原記者>

「ナシリーアで米軍10人死亡、12人不明。イラク国営TVは『カルバラで米ヘリが不時着した』と報道」

【NEWS23】<福本記者>

「米軍ヘリ墜落の情報。英軍スポークスマンのインタ『最小限の犠牲で制圧できる』」

【ニュースステーション】<川端記者>

「米中央軍は1日1回しか会見がなく、皆テレビをモニターして情報を得ているのは皮肉だ。司令官がアルジャジーラの記者に『捕虜の映像を流したのは残念だ。他のメディアはまねしないでほしい』と発言した。他のメディアの記者が『アルジャジーラは敵意を持つメディアということか』と質問すると、司令官は『そんなことはない』と答えた」

米軍の発表をただ流すのではなく、質疑応答も伝えることで緊張感を出している。

3月25日(火)～26日(水)

【ニュース10】<榎原記者>

中央軍のフランクス司令官やブルックス准将の会見、英軍の報道官の発言をそのまま放送し、発言のねらいや背景説明が少ない。

【ニュースステーション】<川端記者>

米司令部がイラク国営テレビ局をトマホークで攻撃したことを認めたこと、またこの攻撃で新しい電磁波爆弾が使用されたという報道もあると大量破壊兵器についても言及している。

3月31日(月)

【ニュース10】<榎原記者>

「空と地上から作戦は順調に進んでおり共和国防衛隊拠点が攻撃目標の中心。包囲網狭めている」と発表戦況を伝えた後、「海兵隊ナシリーアで防毒スーツ、神経ガス除去の車両など発見、

イラク軍化学兵器使用能力の証拠と」「シリア売買の疑いの暗視スコープは未発見」など微妙な問題についても検証抜きで米軍発表を伝えている。また「フランス司令官クエート基地視察、負傷兵見舞い」と心情に訴える米軍のメディア操作・利用の疑いのあるものまでそのまま伝えているのが気になる。

4月1日(火)

【ニュース10】<榎原記者>

「ブルックス准将記者会見、検問所の市民7人死亡事件に質問集中。ブルックス『米軍極力犠牲者出さないように作戦。市民かえりみないのはイラク側、人間を楯に使っている』と米軍見解をそのまま伝えた。

【NEWS23】<福本記者>

「ブルックス『具体的状況把握してない。話したくない。調査中』、BBC記者『アメリカ軍撃ってから質問する軍隊との印象与える』、ロイター記者『アラブの怒りに油を注ぐ』、ブルックス『イラク軍、市民を車に乗せて突っ込ませる戦術多用』など、メディアが疑問・批判をぶつける様子とやりとりをきちんと伝え、「補給路脅かされた頃から米軍、従軍記者追放や幹部がマスコミ批判、事件は米軍の自爆テロへの恐怖と情報開示が限定的なことを改めて際立たせた」と批判的視点をラストコメントに込めている。

4月2日(水)

【ニュース10】<榎原記者>

この日も「ブルックス『米英合同軍の北上止められず、短剣はフセイン政権の心臓に突き付けられている』」「女性兵士救出の映像公開、病院に入る際イラク側と交戦、病院武器庫として使用、近くに11人の遺体」など米軍発表をそのまま伝えた。

【NEWS23】<竹島記者>

「ブルックス『進軍順調』重ねて強調」などの発表はそのまま伝えたが、「ジェシカ・リンチさん救出」については、「写真見せながら複数の特殊部隊の合同作戦明らかに」と伝えるにとどめ、「病院に入る際交戦」などその後明らかにされた救出劇の虚偽部分については触れていないことが注目される。

4月3日(木)

【ニュース10】<榎原記者>

米軍発表をほぼそのまま伝えているが、榎原記者が「ブルックス『バグダッドに迫っているがどの地点にいるかいつ入るかはいえない』と、手の内見せたくない姿勢感じられた」と一言だが記者の見解を付け加えたことが目につく。

カタールの米中央軍司令部の発表や動きについては、この期間「N10」のみ連日報道、ほと

んど記者の見解をつけず米軍発表を忠実にそのまま伝えているのに対し、「NEWS23」は、記者の見解や独自の視点からの記事が付け加えられるときがあり、「N10」が“米軍寄り”と批判される理由もこの辺にあるように思われる。

【NEWS23】<竹島記者>

米軍発表をほぼそのまま伝えている。

4月4日(金)

【ニュース10】<榎原記者>

米中央軍ブルックス准将の記者会見の内容を伝える。サダム国際空港制圧を米中央軍が正式に認めたこと、空港制圧の意義などを、記者会見の内容を整理して報告。

同じ記者会見の中で、イラク領内のアメリカ軍検問所で「自爆テロ」があり、米兵2人が死亡、という発表もそのまま伝えている。

【NEWS23】<竹島史浩記者>

ブルックス准将の会見内容をまとめて伝える。「N10」と大差なし。

4月14日(月)

【ニュース10】<榎原記者>

「近隣諸国や米英軍に脅威をもたらすフセイン政権の排除につとめてきた。軍事作戦は終わりにちかづいている。フセイン一族のDNAをもっている。死亡したのかどうか確認の(追跡)作業をつづけている」記者は指令部の発言を忠実にレポートしている。(2分10秒)

【ニュースステーション】

中央軍指令部の発言を情報として10数秒インサートする。

4月15日(火)

【ニュース10】<榎原記者>

(司令官は会見の半分以上をつかって)「水や電気などのインフラの整備、人道援助に力を入れている。」「脱出しようとしているフセイン政権幹部を重要地点のシリア国境近くで監視している。イブラヒム元内相を国境近くで拘束した。大量破壊兵器は1個旅団(5000人)で捜索を行なっている。情報を合わせていけば全体像が明らかになるだろう。隠しもっていると確信して、今後も発見に向け作業をすすめていく」など、米軍の発表をつたえる。

第11章 バグダッドリポート

3月20日(木)

【ニュース10】<出川展恒記者・隣国ヨルダンのアンマンから>

「サハフ情報相は会見で、『40発の巡航ミサイル着弾。標的はフセインだったが難を逃れた。攻撃されたのはバグダッド郊外などで、1人が死亡、10人以上がけが。軍事施設ではなく国際法違反の侵略行為』と非難。注目されるフセインの演説では、攻撃の日時を特定しており、攻撃後に収録された可能性高い。この中で、『パレスチナは永遠なり』と強調しており、米との対決をイスラム世界全体との対決に拡大する意図が」

【NEWS23】<久保田弘信氏（フリーカメラマン）バグダッドから>

「空爆後の取材では、街に人通りがなく、女性と子どもは疎開しているということ。街を警備していた兵士も重要拠点へ移動したのか姿がない」「第2波攻撃が予想される中でも、市民に緊張感がないのはテレビが米軍の攻撃のニュースを伝えないから。『人間の盾』の日本人には攻撃での死傷者なし」

【ニュースステーション】

<Q・サカマキ氏（フリーカメラマン）・バグダッドから>

「人っ子一人いない。今さらバグダッド脱出は不可能」

<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「午前5時半すぎ、大きな爆発音に続いて断続的に対空砲の発射音」「イラク政府の重要施設が空爆されたもよう。被害の詳細は報道陣に公開されず不明」

<宮嶋茂樹（フリー・ジャーナリスト）・バグダッドから>

「バグダッドの西270キロ地点で、空爆の跡に出会う。建物が粉碎され、遺体も」

3月21日(金)

【ニュース10】<出川展恒記者・アンマンから>

「サハフ情報相は『大統領宮殿が攻撃されたが、フセイン一家は無事。民間地域への攻撃で市民37人がけが』と非難。『クウェートでの米軍ヘリ墜落はイラク軍が撃墜したもので、イラク兵の投降映像はねつ造。ウムカスルの制圧情報も間違い』と否定。イラク軍は宣伝工作で弱体化しないと徹底抗戦を強調」「イラク政府は各国の報道関係者に対して、大きな被害を受けた政府関係の建物を映した映像を厳しくチェックする一方、民間の被害個所に案内。一般市民の被害を報道させ、米軍の不当性を国際社会に訴える方針」

【NEWS23】<久保田弘信氏（フリーカメラマン）・バグダッドから>

久保田「私のいるホテルの真上に向けて対空砲が…。また航空機、真上を飛ぶジェット機の音が聞こえる」（東京）「大丈夫か」久保田「落ちてこないことを祈るだけ」

「昨夜の空爆から1日経って、市内は平静を取り戻す。店はほとんど閉まっているが、バス

は運行。街中に配置された兵士は爆撃を受けた官庁街へ移動。昨夜の空爆は30分以上続き、大量の黒煙が上がった。建設省の建物がミサイル直撃でほぼ全壊している。国営ラジオは米軍のミサイル2発を迎撃、戦闘機も撃墜と伝えたが、バスラなどの都合の悪いニュースは一切伝えず」

【ニュースステーション】

<Q・サカマキ氏（フリーカメラマン）・バグダッドから>

「巡航ミサイルが轟音とともに飛来。イラク市民が予想したほどの破壊はなかった」

<宮嶋茂樹氏（フリー・ジャーナリスト）・バグダッドから>

「ホテルから1キロ地点に着弾、建物の屋根に大きな穴を目撃」

<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「昨夜の空爆は大統領宮殿をねらったのだろうが、実際には民間人にけが人。バグダッドでは民間人が武装して配置につく姿も。負傷者がいる病院は公開したが、政府関連施設は非公開」

「世界の反戦デモについてバグダッド市民はよく知っている。フセイン支持者は世界は我々の味方といているが、あるタクシー運転手は、『国民は最後にはフセインを見放す、彼の時代は終わった』と断言した。空爆は今後さらに激しく、南部からは米軍が北上する状況下、バグダッド市民にとっての戦争は、これからが正念場」

「N10」他局がバグダッドにいるフリーのジャーナリストに依頼するか、あるいは契約で派遣したのに対して、NHKはあくまで自局取材にこだわったため、結局ヨルダン・アンマンからレポートするしかなく、バグダッド空爆の生々しい様相や、被害の実態は外国メディアの映像でしか伝えることができず、もどかしさが残った。

「N23」20日はフリーの久保田カメラマンが、比較的冷静に攻撃後の市内の様子などを伝えたが、21日のレポートでは、自分のいるホテルの真上で対空砲火や米軍機の轟音が交錯する生々しい雰囲気が伝わった。

「N・S」は、サカマキ、綿井、宮崎のフリーの3氏が、それぞれバグダッドから生々しい体験をもとにレポートした。綿井氏は大きな被害を受けた政府関連施設の取材を厳しく制限する一方、民間施設の被害はバスで案内するイラク当局者の姿勢を、一貫して批判し、空爆下における報道陣と政府権力とのせめぎ合いの実情を伝えた。

3月24日（月）

【ニュース10】<出川展恒記者・アンマンから>

アンマンからバグダッドのスタッフに電話で様子を聞く。「市内にイラク軍は見当たらない、女性や子供は米軍の爆撃を避けようと安全な場所に身を寄せ合っている」

【NEWS23】<遠藤盛章氏（ビデオジャーナリスト）・バグダッドから>

ビデオフォン映像で中継。

「バグダッド市街に白や黒の煙があがっている、イラク軍がわざと煙を上げているものもあ

る」

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

久米キャスターとの掛け合いでバグダッド中継。

「バグダッド市内の市場が空爆され、民間人が死傷した、イラクでは報道規制が強まっている、軍事施設などは一切公開されていない」

3月25日（火）

【NEWS23】

<遠藤盛章氏（ビデオジャーナリスト）・バグダッドから>

ボイスリポートで「バグダッド市民には米軍の攻撃の正確な情報は伝わっていない」

<久保田弘信氏（フリーカメラマン）・バグダッドから>

「バグダッドの『人間の盾』のデモは日本人が多かった」

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「きのう日本の『人間の盾』の人が身柄拘束された。民間人の負傷者は相次いでいる。誤爆はバグダッドやその北部でも起きている」

「人間の盾」の人たちが「ノーモアウオー」のデモする映像を流す。

「人間の盾」の人々については「NEWS23」も企画風に取り上げたが、「N10」は全く無視している。

3月26日（水）

【ニュース10】<二村記者・アンマンから>

バグダッドのスタッフに電話で現地の様子を聞く。

「人口の密集地にミサイルが着弾し、大勢の死傷者が出た。軍用目標はない。被害者インタ『ブッシュは最低だ、犯罪者だ』。被害者が増すに連れ反米感情は強まり、イラク国民の解放というアメリカの戦争目的など誰も信用しないという怒りの声が上がっている」

【NEWS23】<久保田弘信氏（フリーカメラマン）・バグダッドから>

電話リポート。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「きょう午前、過去最大規模の空爆被害が出た。もう誤爆でなく無差別殺戮が始まったといっても過言ではない」

3月31日（月）

【ニュース10】<出川展恒記者・アンマンから>

「(アルジャジーラ引用) 20分前数箇所爆発音、プレスセンター・イラク情報省も再びミサイル攻撃。国営放送再開、電話不通に。(イラク国営放送引用) サブリ外相『イラク軍・市民

は力強く闘い、米英の選択肢撤退のみ』。イラク指導部、ナジャフきっかけに自爆テロ広範に行うと警告。アラブ諸国から 5000 人の志願兵集まったとも」

【NEWS 23】<福岡孝浩氏（ビデオジャーナリスト集団）・バグダッドから>
電話インタビュー。

「空爆されたサダム・タワー」、「アル・ヤクーム病院」に引っぱり無しに負傷者が運ばれてくる様子などを伝えた。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「断続的に空爆継続、市内全域で電話ダウン。情報省空爆でジャーナリスト市内のホテルに移動。街で奇妙な現象・次々商店開店。長期戦の予測で臨戦ムード和らぎ、警官・兵士の姿減る」と今の様子をリアルに伝えた。

4月1日(火)

【ニュース10】<二村 記者・アンマンから>

サハフ情報相記者会見内容のほか、「イラク当局バグダッド西のミサイル攻撃現場に報道陣案内、アメリカの攻撃の不当性・非人道性訴え」「市民の被害増えるにつれ『単なる侵略ではないのか』の反発、住民からも」など。

【NEWS 23】

<武田記者・アンマンから>

「N10」とほぼ同内容を伝える。

<遠藤盛幸氏（ビデオジャーナリスト）・バグダッドから>

中継で「一時間前、市の南部に大型の爆弾、激しい空爆始まりそう。外国報道陣への報道規制ますます強まり日本人記者二人強制退去」と伝えた。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「市内北部の民家訪問、『空爆始まると家の中心の部屋に』『空爆始まると歌ったり、あえて日常会話続ける』」という市民の声をレポート。「市場や店をオープン、日常生活続けることが抵抗の意思表示」と空爆下の街の表情をも伝えた。

4月2日(水)

【ニュース10】<出川記者・アンマンから>

「ヒッラ、住宅地爆撃され 30 人以上死亡、300 人以上が怪我」と民間人の被害を伝えたほか、「サハフ情報相記者会見『彼らの主張は幻想、毎日ウソ』。国営テレビ繰り返し大統領声明流しバグダッド攻防に向け一層引き締め」と政府発表も。

【NEWS 23】

<岡田徹也記者・アンマンから>

「イラク国営テレビ、フセイン声明」「ロイター通信『カルバラ付近第3歩兵師団軍事支配確立』」など。

< スタジオ・ゲストに久保田弘信氏（フォトジャーナリスト） >

「空爆の下で何が起きているか」を東京に送り続けた空爆レポート映像をインサートしながら、「イラク政府の監視の目くぐり撮影、『人間の楯』の取材にも力入れた。戦争始まると著しい取材制限」「市民が一番恐れているのは略奪、命令出ていないが一家で誰か一人は残っている」「米軍への協力、今は可能性薄い」など市民の表情を詳しく伝える。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「開戦以後初めてバグダッド以外の現場訪問、ヒッラの病院は入り口付近まででベッド。昨日激しい空爆で死者30人以上。医師『クラスター爆弾使用』と二次・三次被害を警告」など被害状況を生々しく伝えた。

4月3日（木）

【ニュース10】<二村記者・アンマンから>

「サハフ情報相発表。バグダッド市街地にクラスター爆弾投下、14人死亡66人ケガ。民間への攻撃を強く非難」「市内空港方面爆発音、国際展示場も大きな被害、イラク首都決戦に向け体制固め」など。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「病院近くの空爆現場報道陣に公開。国際トレードセンター完全に破壊、病院は報道陣に公開されず」の空爆被害の他、「アルジャジーラ記者退去命令など報道陣への締め付け非常に厳しく、市民は海外のアラビア語放送を」とイラク政府の報道規制、「市内平穏だが、銃持つ市民少なくない、アメリカ軍に銃向けることになれば犠牲避けられない」と市民のようすをレポート。

この項で、もっとも特徴的なことは「N10」がバグダッドからの生情報がなくアンマンからの取材でカバーしていたのに対し、「NEWS23」「N・S」はフリージャーナリストの現地レポートによって、被害や市民の表情をリアルに伝えていたこと。

編集意図はともかく、視聴者には「NEWS23」「N・S」が、「N10」に比べ、空爆の被害・イラク市民の犠牲により強い関心を払った人道的視点からの報道だったこと印象付けた。

4月4日（金）

【ニュース10】<出川展恒記者・アンマンから>

イラク政府側、バグダッド市民の動きを伝える。フセイン大統領の声明を読むサハフ情報相、バグダッドの空爆、停電、モスクの市民、民兵 などの映像。

アルジャジーラのイラク市民の被害レポート。「バグダッド南部で大規模な空爆があり、クラスター爆弾で市民18人が死亡」と伝える。病院のベッドの少女の映像とインタビューも。

【NEWS23】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

バグダッド市民の生活について中継レポート。停電と水不足が懸念と伝える。

【ニュースステーション】<綿井健陽氏（アジアプレス）・バグダッドから>

「N23」と同じリポーター、内容もほぼ同じ。

4月14日(月)

【ニュース10】<二村記者・バグダッドから>

「バグダッド市民が自警団をつくるなどの自衛行動」「米軍のよびかけでイラク人警察の再組織化が開始された」などを伝える。元警官のフセイン政権崩壊歓迎のインタビューも紹介、「米軍協力のもとで治安回復にのりだしたが、治安は悪化するばかりでイラク再建は容易でない」とコメント。

【NEWS23】<斉藤雅俊記者・バグダッドから>

掠奪の被害、治安の悪化にたいして、自衛措置をするホテルや商店、自警団の動きを伝えるが、「復活したイラク人警官などあっても能力は限られている」とコメント。掠奪行動に対し傍観視する米軍とラムズフェルドの「自由とはこんなものだ。自由な人間は間違いをおかすものだ。」、大衆デモの「新しい政府を！」の声などを伝え、「イラク復興に向けた治安回復に米軍が本腰をいれるよう求める」コメントで結ぶ。

【ニュースステーション】<鈴木大介記者・バグダッドから>

掠奪や治安の悪化、市民生活の被害を伝える。新生児のいる病院の医療酸素もない窮状や、水も電気もガスも深刻なバグダッドの市民生活を、公営住宅に住む個人の家の「空の冷蔵庫」、「止まっているガス」などの映像で詳細にみせる。これに対比させる形で「自由とはまとまりがないものだ。間違いや悪さをしていいし、自由に生きていい。それがイラクでおこっていることだ」というラムズフェルドの発言を紹介、「水も電気もない、銃声のする暗闇での生活は裕福な生活をしてきたイラク人には堪え難い。改善の跡をみせない」と批判は高まる。」とのコメントで結ぶ。

4月15日(火)

【ニュース10】<二村記者・バグダッドから>

バグダッドの治安の回復と市民生活の状況をレポート。

イラク軍の残された兵器に脅かされる市民、怪我をしたこども、復活した警官と海兵隊の服を着るイラク人など治安回復に共同でとりくむ米軍とイラク人、不発弾処理を米軍に頼るイラク人の姿、営業を再開した商店と値上がりした商品、テレビ・ラジオ局再開の準備などバグダッドの市民生活を全体的につたえる。2週間以内に電気を復活させる米軍の予定などもつたえる。

【NEWS23】<斉藤記者・バグダッドから>

危険なバグダッドの状況をレポートする。

現場の叫び声や弾丸の実射音と共に「マレーシアの取材クルーが襲われ、ジャーナリストの宿泊するパレスチホテルの外人記者も寝込みを米軍に捜査される」と生々しい状況をつたえる。治安の乱れに抗議し「サダムもブッシュもいらない」と民衆デモの姿も。

【ニュースステーション】<鈴木大介記者・バグダッドから>

家族全員と両手を失ったアッバス少年「僕らを殺すことが解放なのか？」の問いに、ブレア首相の議会答弁「敬意をもってアリ君をたすける」を対置したVリポを導入に、現地記者リポではフセイン政権の内部事情を伝える。元情報省幹部や職員の証言から「37000ドルの金を盗んで逃亡した幹部」など政権内部の腐敗した状況、「バグダッド陥落寸前に姿を消した政権幹部の逃亡に使われたかもしれない地下道」映像など国民を置き去りした政権の姿を伝える。

第 1 2 章 反戦運動

3月20日(木)

【ニュース10】

6項目にようやくアメリカ、ロシア、パキスタンの反戦デモを入れる。時間はわずか19秒、日本のデモは取り上げず。

【NEWS23】

アメリカ、フィリピンのデモを12秒出したあと、東京の米大使館前の抗議行動をリポートした。

【ニュースステーション】

前半でオーストラリア、韓国、メキシコなど5か国のデモ、中盤でロシア、イギリスのデモ、後半で米大使館と首相官邸の抗議行動をリポーターが伝える。計1分40秒ほど。

3月21日(金)

【ニュース10】

中盤になって日比谷公園と銀座のデモを簡単に紹介。続いて「世界に広がる反戦の声」の項目でアメリカ、フランス、ベルギーなどのデモを1分半ほどで伝える。

【NEWS23】

タイトルにも日本の反戦デモを挿入、前半の「反戦高まる」でアメリカ、フランス、イギリスのデモを伝えた。中盤では「反戦のうねり」で芝公園の集会とデモ、渋谷の高校生の集会を2人のリポーターが丁寧に伝えたほか、沖縄や広島抗議行動などを7分あまり割いて伝えた。

【ニュースステーション】

後半の「世界包む絶望・怒り・反戦の荒波」のコーナーでは、トルコ、イギリス、フランス、ドイツからの記者リポートを交え、世界8か国の反戦集会・デモを伝えたほか、日本の集会では東京・芝公園と、渋谷の高校生の集会をリポートした。渋谷の集会では、主催者の実行委員長にインタビューするなど力のこもった伝え方をした。

3月24日(月)

【ニュース10】

世界各地で反戦デモ（サンフランシスコ、メキシコシティ、広島）。

【ニュースステーション】

NYの50万人デモ、日本の反戦デモ、米仏日英の世論調査とからませて伝える。

3月25日(火)

【ニュース10】

「世界にひろがる反戦の声」。 ハンブルグ、キャンベラ、ニューデリーのデモ、韓国では反戦の声強いので派兵法案採決を見送ったことなどを伝える。

3月26日(水)

【NEWS 23】

アメリカの誤算という観点で世界にひろがる反戦感情を取り上げている。
フランス、ドイツ、スペイン、韓国、インドネシア、台湾、フィリピン、日本、アルゼンチン、メキシコ、チリ、ヨルダン、シリア、バーレーンの反戦デモ。
参戦国ではイギリス、オーストラリア、アメリカ、アメリカでは反戦デモもあるが、戦争支持デモもある。

【ニュースステーション】

反戦デモは続いていると短く出す。

3月31日(月)

【NEWS 23】

39秒と短いながら、世界各地と大阪の反戦デモや市民集会を報道。

4月1日(火)

3番組ともなし。

4月2日(水)

【ニュースステーション】

平石アナのVリポで「平日夜、雨、それでもどんどん集まってきている東京明治公園・午後6時半の集会」を伝え「開戦から2週間、今も続く反戦の声、参加者5000人」のリポと参加者インタビュー紹介で1分半近くを割いている。

4月3日(木)

【NEWS 23】

ゲストコメントのインサートながら日本の若者の反戦デモを30秒ほど伝えている。

4月4日(金)

3番組ともなし。

4月14日(月)

【ニュースステーション】

アメリカ政府のシリア攻撃と合わせて周辺国のヨルダン、バーレン、パレスチナ自治区の反

戦・反米デモをつたえる。

4月15日(火)

【ニュース10】

イラク国内で暫定統治に不信をつきつけるナシリーアの大衆デモ「アメリカもフセインもいない」(反戦でなく反米デモかもしれないが)

【NEWS 23】

バクダッド治安の乱れに抗議し「サダムもブッシュもいない」と民衆デモ。(反戦でなく反米デモかもしれないが)

【ニュースステーション】

イラク、ナシリーアの大衆デモ、親米派のチャラビは批判を恐れて欠席、革命評議会も暫定統治の会議をボイコット(反戦でなく反米デモかもしれないが)

第13章 各番組の報道スタンス

3月20日(木) 21日(金)

【ニュース10】

項目別の情報量で目立つのは戦況解説と、日本政府関連情報、それに米英軍情報の時間数の多さで、他の2番組に抜きん出ている。それに比較して日本国内の反戦運動については、20日は無視、21日も他番組に比べて極端に少なく、「N10」の政府寄り、米英寄りの姿勢がはっきり出ている。また、武力行使の背景について時間を十分割いて解説することがなかった。

項目の配列順では、20日、21日も最初の方に米英軍の攻撃の進展を据えて、圧倒的な力の誇示を印象づけた。フセインなどイラク政府関係者の映像は、ブッシュなどとの対比で一応は入れたが、日本の野党、反戦運動のオーダーは低く設定されていた。

【NEWS23】

項目別の情報量では、戦況解説と米英軍の戦闘情報、それに日本政府の主張・行動の部分が他の2番組、特に「N10」と比べて極端に少なく、戦争報道で戦局に関する興味本位の伝え方をしないという姿勢をとった。それとは逆に戦争の性格や背景についてのゲスト討論に、両日合わせて50分以上かけて戦争の本質に迫ろうとした。

項目の配列順を見ると、20日は最初の部分に戦況や各地の反応をまとめて伝え、中盤から終盤にかけて「戦争の正体」をテーマに、長時間のゲスト討論の時間を設け、翌日は最初から同じテーマで、ゲスト討論を数回にわたって入れる熱の入れようだった。

【ニュースステーション】

戦況解説の2日目は、日本側のゲストに加え、米戦略国際問題研のコーデスマン氏と中継で結んで長時間伝えたのが目立った。また、海外と日本国内の反戦運動も2日目は、特に「N10」と比べると際立って長く伝えた。前日と変わらない政府の動きはほとんど無視したかたち。

項目の配列順は、20日が開戦前の日本政府や国内の動きと、開戦後の動きを対照的に伝えて、慌ただしい対応ぶりを印象づけた。21日は攻撃2日目のドキュメントを冒頭にまとめて伝えたのは、世界のさまざまな反応が分かってよかった。世界と日本国内の反戦運動は後半になったが、扱う国の数や国内の集会の扱い方は、レポートを交えて丁寧にしっかり伝えた。

3月31日(月)～4月3日(木)

今回の番組分析作業をしながら報道スタンスの問題で一番考えさせられたのは「客観報道」のありようについてである。

もとより、不偏不党の立場で主観をまじえず正確な事実を伝える「客観報道」を否定するも

のではない。一方的主張や見解をもとに誤った世論誘導を展開するより、正確な事実と判断材料を提供し公正な判断を視聴者にゆだねる「客観報道」を基本的に評価すべきだと思うし、「N10」はじめ客観報道を標榜する NHK 報道への信頼度をみれば、多くの視聴者もこれを支持していると思う。

しかし、個々のニュースは正確な事実やありのままが伝えられた「客観報道」であっても、それ以前の、各番組が何を伝え何を伝えないかを取捨選択する価値基準・報道姿勢が垣間見えてきたのが、今回の番組分析作業で得た最大の収穫ではないだろうか。

その垣間見えた報道姿勢のいくつかを 3 月 31 日を例に検討してみたい。

この日、「N10」は、Vリポ「ゲリラ戦と掃討作戦」。視聴者の心情に訴えるねらいか（砂漠の戦場で死亡した兵士を悼む米兵たち）などが入った米英軍の前線の動きを中心に 141 秒、イラク側情報は被害には触れず 31 秒。米英の動きを中心に伝えている。

「N23」は、「最大の誤爆か 50 人以上死亡、市場でミサイルと見られる爆発」とイラク側の被害、民間人の犠牲を取り上げ、「補給活動に遅れ、一日一食の部隊も」と米軍の窮状も伝えている。

「N・S」も、「イラク市民の被害確実にひろがり」の視点で「週末のバグダッド市内空爆」による市民の犠牲を伝え、「米ミサイル隣国サウジにも被害」と米軍の誤射を伝えている。

「N10」は、米英軍の窮状や誤射などのマイナス面を伝える事が少ない一方、量的には第 2 章の情報量比較データにあるように、戦闘情報は米英軍の情報が他の 2 番組に比較して圧倒的に多く、対照的にイラク側の空爆被害や市民の犠牲などの情報は少ない。

次に同じ 3 月 31 日の企画・特集を比べてみよう。

「N10」は、「イラク情報戦、CIAのたたかい～テネット長官を追う～」。

ブッシュ政権の中で情報戦の主役を担う CIA テネット長官を追う米政府内部の動きを詳しく伝え、ラストコメントでは「情報を武器にしてフセイン追い詰めるテネットの戦い、最後の局面を迎えている」と結ぶが、批判的視点を感じさせない。

同じ日、「N・S」は、「焦りといらだち～米英政権中枢」。

米政府の足並みの乱れ、ウソつき呼ばわりされる英ブレア首相、品位と正確さが疑われる米ブッシュ大統領ラジオ演説などを伝え批判的視点を明確に打ち出している。

「N23」は、この日短いながら世界各地・国内の反戦集会も伝えているが、「N10」は私の担当した 4 日間、一度も内外の反戦運動を伝えていない。

他にも、企画特集ではこの期間、「N・S」が 4 月 1 日「民主化という名の戦争」、「N23」が 4 月 2 日に「イラク戦後の世界ニッポンの選択」の特集を組み、この戦争の本質や性格を問う姿勢を見せているが、「N10」には、それに類する企画が見当たらない。

ここから読み取れることのひとつは、他の 2 番組に比較して、「N10」は「客観報道」に徹して米英軍への批判的コメントしないのはもとより、ニュース選択の上でも米英政府・軍への批判や批判的情報を伝えていないことである。

読み取れる報道姿勢の二つめは「N10」にはまったくといっていいほど戦争の本質や性格を問う姿勢がみられないことである。企画や特集ばかりでなくキャスター・コメンテーター・ゲストの解説や発言を見回しても戦争そのものを問う視点は感じられない。

「N10」は、米英軍が国連決議なしに武力行使に踏み切ったことにもほとんど触れない。

このテーマを回避したというより編集方針として「客観報道」に徹して論評や評価を避けたとも考えられるが、「客観報道」とは、人道的な立場からの戦争批判、先制攻撃という国際法に反する戦争にも等距離で無批判でなければならないのだろうか。

さらに言えば、国際紛争の解決手段としては武力行使を否定する憲法を持つ国のマスメディアとしてのスタンスはどうあるべきかも問われる必要があるだろう。

4月4日(金)

戦況報道については、この日は3番組に大きな差はみられない。むしろどの番組も似通った映像、情報が使われ、差というよりは共通性のほうが大きい。

スタンスの差がでているのはワシントンからのレポートで、「N10」が客観的事実のレポートという印象にたいし、「N23」が取材者の批判的視点をにじませている。(該当の章参照)

また、この日に限らないが、「N23」が“「この戦争」の正体”という連続企画で「イラク戦争」そのものを問題にしている姿勢は他局にないものである。

4月14日(月)

<治安の維持、公衆衛生をまもる責任のありかたについて>

「N10」には、編集の基本的な視点として「米英占領軍に治安の維持や公衆衛生の責任がある」という認識がないのではないかと

「N23」も「N・S」も治安の責任は占領軍にあること基本的な視点としている。掠奪や治安の乱れに対するラムズフェルドの「自由とはこんなものだ。自由な人間は間違いも起こす。だから自由に生きられる」という無責任発言を問題視して、掠奪などに悩むイラク人と対比させて編集している。

<大量破壊兵器について>

「N10」は、米軍の目標8つの中の3つ～政権の打倒、大量破壊兵器、暫定政権～をパネルで表示して解説したが、幹部・要人カードの説明には60秒以上使用しているのに、イラク戦争を始める理由とされた大量破壊兵器には10秒で軽い扱いである。

「N・S」は、「大量破壊兵器は？ みつからない“大義”」で、米政府の「発見できていない大量破壊兵器は捜査をする」との記者会見を伝える。「わかるのはいつになるか」と再度追求され、「兵器発見は軍の優先事項ではない、戦争中はやるのがたくさある」と逃げる政府と記者のやりとりまで見せて、戦争目的に掲げた大義に強い疑問を投げかけている。

<「フセイン像の倒されるシーン」について>

「N10」は、これを疑問視せず、戦況報告の背景に使っている(同じように15日も使用)

が、「N23」はこのシーンをアメリカがイラク戦争を「解放戦争」として演出する流れのなかに位置づけている。「意図的に仕組まれたやらせ」、という情報が伝えられたにもかかわらず、「N10」のこのようにあつかいには疑問を感じる。

4月15日(火)

<暫定統治の行方は？ 占領統治に日本の関与は？>

「N10」は、「安定した政権づくりは時間も労力もかかる」と伝えるが、その状況や理由が掘り下げられていない。例えば、ナシリーアの「アメリカもフセインもいない」という大衆デモにも見られるような対米不信が、イラク国内の1部のものか、広汎なものかという判断が必要であろう。「N10」はこの点について何も触れない。

暫定統治協議会については、「米英が会議の主導権を握っていない。とりまとめる役にすぎない」とする一方、「アラブ周辺諸国は“親米、親イスラエル、石油支配しやすい”アメリカ主導の政権づくりに歯止めをかけたい」と伝える。米英に協議会の主導権が握られているという報道も多い中で、こうした対比はアラブ周辺諸国の主張にリアリティーを欠き、単なるアラブ側の猜疑心とも受け取られかねない伝え方ではないだろうか。

「N23」は、「イラクの未来をアフガンから問う」としてゲストに NGO の中村医師。「イラク攻撃の始められた日にもアフガンではアメリカの空爆作戦が行なわれている。アフガンではカルザイ政権がいまも危なくて首都カブールから出ていくことも出来ない状況、アフガンはすでに破綻している」とイラクの未来を暗示、「復興人道支援室（ORHA）へ4人派遣、日本人要員にエネルギー担当がいることはイラク油田復興に日本の影響力確保が狙いか」との問題提起で結んでいる。

「N・S」は、ORHA が米中央軍の下部組織であることを指摘し「米占領統治へまたしても追随」と問いかける。午前中の官房長官の記者会見では「自衛隊の派遣可能」、午後には「派遣できない」という動揺ぶりも伝える。また、「憲法9条で禁じられている交戦権には占領統治が含まれる」とする1980年の政府見解を紹介、自衛隊の派遣に疑問を投げかけている。